



創立百周年記念誌

OITA TSURUSAKI Senior High School

大分県立大分鶴崎高等学校

100th Anniversary



校 旗

二、大野の流れ 澄むところ

心の珠を 磨きつつ

真理求めて 撓みなく

学ぶ学ぶ 鶴崎高校の

我等に夢と 理想あり

三、緑の山河 虹たちて

自主独立の 風を呼びつつ

愉し同胞 今ここに

集う集う 鶴崎高校の

我等に愛と 自由あり



校 歌

一、東雲燃ゆる 朝空に
平和の光 仰ぎつつ
若き希望の 眉あげて
挙る挙る 鶴崎高校の
我等に意気と 力あり

作詞 河 西 新太郎
作曲 長谷川 良 夫

校 章



校 訓

克己 友愛 創造



校訓碑（昭和49年3月建立）



記念碑（平成22年10月建立）









創立百周年
記念碑



巻 頭 言



校 長

堀 江 道 廣

大分鶴崎高等学校の学校創立百周年を記念して、本校のこれまでの歴史を記した「創立百周年記念誌」が刊行されますことを心からお喜び申し上げます。

本校は、明治43年4月に鶴崎女子技芸補習学校として開校してから、幾多の変遷を経て昭和39年には大分県立大分鶴崎高等学校となり現在に至っています。その間、大分市東部を代表する普通科進学校としての伝統を受け継ぎ、幾多の俊英を世に送り続けてまいりました。23,000余名の卒業生の方々は地元大分を始め、全国各地で活躍しております。

学校の近くには文武両道の理念を掲げ若者の教育に情熱を捧げた先哲毛利空桑の記念館や、楠の大本の並木道通称「哲学の道」があります。このような恵まれた環境の中で生徒達は「克己・友愛・創造」の校訓のもと、文武両道の達成を目指して日夜勉強に部活動にと熱心な取り組みを行い、着実な成果をあげてきております。

21世紀の日本は、国内外に多くの厳しい問題を抱えています。これまで安全・不変と思われていたことが次々と崩れ、世の中は変化の激しい先行き不透明なものになりつつあります。こうした時代をたくましく生き抜いてもらうために、創造的で意欲的な姿勢を持ち続ける心身ともに調和のとれた生徒の育成に努めて参りました。百周年記念碑の正面に刻んだ「我等に夢と理想あり」の校歌の一節のように、先輩方の築いた伝統を受け継ぎ、大分鶴崎高等学校生としての誇りと気概を持つと共に夢と理想の実現のために努力を重ね、社会で活躍できる心豊かな人に育ててほしいと願っています。

皆様方からいただきましたご厚情に感謝申し上げますと共に、百周年を節目として温故知新の精神で、生徒と職員とが心をつなげてさらに精進を重ね、地域の方々から信頼される学校作りに努めていく所存であります。これからも、大分鶴崎高等学校のさらなる発展のためにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、本記念誌の刊行にあたり、ご多用の中原稿をお寄せいただきました皆さんにお礼申し上げますと共に、編集に携わりました方々に深く感謝申し上げます。

Contents

OITA TSURUSAKI Senior High School 100th ANNIVERSARY

口絵

校旗、校章、校訓、校歌、校訓碑..... 2

航空写真..... 4

記念碑..... 6

巻頭言 校長..... 7

記念事業

記念式典、式次第..... 10

式辞

鶴崎高等学校 校長 堀江 道廣..... 11

祝辞

大分県知事 広瀬 勝貞..... 12

大分県議会議長 安部 省祐..... 12

大分県教育委員会教育長 小矢 文則..... 13

大分県高等学校長協会 会長 山本 省悟..... 14

鶴崎高等学校同窓会長 外山 邦夫..... 15

鶴崎高等学校PTA会長 三浦 洋二..... 15

生徒代表あいさつ

生徒代表 工藤 璃央..... 16

記念講演..... 17

祝賀会..... 18

記念翔鶴祭..... 19

記念招待試合..... 20

記念発表会・記念作品展..... 22

百年のあゆみ

歴代校長..... 24

鶴崎女子技芸補習学校～鶴崎高等女学校時代..... 26

鶴崎中学校時代..... 36

県立鶴崎高等学校時代..... 44

大分鶴崎高等学校時代Ⅰ..... 56

大分鶴崎高等学校時代Ⅱ..... 74

大分鶴崎高等学校時代Ⅲ..... 94

現在の鶴高

年間行事..... 118

部活動紹介..... 122

進路状況..... 130

同窓会..... 131

P T A 活動、花たちばな..... 132

資料

校舎配置図..... 140

卒業生数一覧..... 142

部活動成績..... 143

編集後記、編集委員一覧





写真：100周年記念式典

記念事業

OITA TSURUSAKI Senior High School

100th Anniversary

記念式典

平成22年10月2日（土） 9:40～10:40
於 大分鶴崎高等学校 体育館



式次第

1. 開式のことば
2. 国歌斉唱
3. 物故者追悼
4. 校長式辞
5. 来賓祝辞
 - ① 大分県知事
 - ② 県議会議長
 - ③ 大分県教育委員会
 - ④ 校長協会会長
6. 同窓会長あいさつ
7. PTA 会長あいさつ
8. 生徒代表あいさつ
9. 祝電披露
10. 校歌斉唱
11. 閉式のことば

式 辞

校長
堀江 道廣

記録的な猛暑も少しずつおさまり、朝夕の冷気に秋の気配を感じる頃となりました。実りの秋を迎えた今日の佳き日に、大分県立大分鶴崎高等学校創立百周年の記念式典を挙行いたしましたところ、御多忙中にも拘わりませず、大分県副知事平野昭様、大分県議会副議長渕健児様をはじめ多数のご来賓のご臨席を賜りましたことに對し、厚く御礼を申し上げます。

本日創立百周年という意義深い行事を盛大に開催できましたのも関係各位、とりわけ本校同窓会である鶴朋会会員各位並びにPTAの皆様、地域の皆様方の深いご理解とご支援のたまものでございます。重ねて御礼申し上げます。

さて、本校は明治43年4月に鶴崎女子技芸補習学校として開校しました。その後、昭和17年には旧制鶴崎中学校が設置されました。昭和23年の学制改革により、大分県立鶴崎高等学校となり、昭和39年に大分県立大分鶴崎高等学校と改称し、現在に至っています。その間本校は、大分市東部を代表する普通科進学校としての伝統を連綿として受け継ぎ、幾多の俊英を世に送り続けて参りました。開校以来2万3千余名の多きを数える卒業生は地元大分を始め、全国各地で活躍しております。

私たち教職員並びに生徒一同、この伝統を誇りにして、「克己・友愛・創造」の校訓のもと、「文武両道の達成」を掲げ、日夜勉強に、部活動に鋭意精進を重ね、着実な成果をあげてきております。

本校生の大部分は上級学校への進学をめざしており、国公立大学や関東、関西をはじめ地元の私立大学に多数の生徒が進学しています。また、就職希望者も全員がそれぞれの希望の企業に就職するなど各自の希望する進路目標に向かって努力を重ねております。

また、部活動でも輝かしい成果を収めています。6月の高校県体では女子ハンドボール部の16年連続優勝をはじめ、サッカー部、女子水泳部が優勝しました。剣道部、男子水泳部なども活躍し、県代表として全国大会や九州大会に出場しました。また文化部でも吹奏楽部が県の吹奏楽コンクールで2年連続で金賞を受賞しました。

ギターマンドリン部、演劇部、写真部、書道部、茶道部など多くの部が多様で独創的な活動を展開し、県大会ではたびたび入賞しております。

さて生徒の皆さん、皆さんが生きていく21世紀は、少子高齢化、国際化、情報化など変化の激しい、先行き不透明なものになりつつあります。こうした時代をたくましく生き抜くためには、時代が変わっても決して失ってはならない「不易」と時代の要請である「流行」を正しく認識し、創造的で意欲的な姿勢を持ち続けることが大切です。「我等に意気と力あり」「我等に夢と理想あり」「我等に愛と自由あり」の校歌の一節のように、先輩方の築いた伝統を心に刻み、自己を厳しく錬磨し、大分鶴崎高等学校生としての誇りと気概を持つとともに、多くの人から信頼される心豊かな人になってほしいと思います。

伝統とは過去の栄光ではありません。高い望みを懸命に追求してきた先輩たちのように、熱き心で自らを鍛えようとする皆さんの心の中にあるということを確認して下さい。皆さんの一層の努力で伝統がより輝かしいものとなることを期待しています。

本日の百周年記念式典を契機とし、私ども教職員は生徒とともに心を新たに今後一層の研鑽・努力をし、大分鶴崎高等学校の伝統を継承し、温故知新の精神で地域の皆様方に信頼され、ご期待に応える学校となるよう努めて参る所存であります。

ご来賓の皆様方、ご列席の皆様方、本日は大変お忙しいところご出席賜りまして誠にありがとうございました。今後とも本校の教育活動に深いご理解をいただきますとともに、本校のさらなる発展のためにご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げまして、式辞といたします。



祝 辞

大分県知事

広瀬 勝貞（代理：副知事 平野 昭）

大分県立大分鶴崎高等学校の創立百周年を心からお祝い申し上げますとともに、輝かしい歴史を築いてくださいました皆様に、衷心より敬意を表します。

本日ご出席の生徒、教職員の皆さんはもとより、同窓生をはじめとした本校に関係する方々には、この記念すべき日を迎え、大きな誇りと喜びを感じておられることと思います。

かえりみますと、明治43年に創立されて以来、1世紀にわたる輝かしい歴史の中で、「克己・友愛・創造」の校訓のもと、県内、国内はもとより世界で活躍する2万3千名もの人材が育成されてきたことは、誠に誇らしいことです。

現在、我が国は社会の様々な分野で変革が急がれています。教育においても、教育基本法や学校教育法等の改正を踏まえた学習指導要領が告示され、まさに、新しい時代にふさわしい教育の姿が求められています。このような時代には、変化を後追いするのではなく、先取りしながら積極的に物事に挑戦していくことが重要です。

私は、知事就任以来、安心・活力・発展を県政の基本理念として、「安心して心豊かに暮らせる大分県」「知恵と努力が報われる活力ある大分県」「人材あふれる発展の大分県」を目指し、教育の充実を図り、人材育成に努めてまいりました。さらに「夢と希望あふれる大分県」の実現を目指して、子どもたちの挑戦や自己実現を支える大分県づくりを推進しているところです。

このような中、県民の皆さんが高校教育に寄せる期待

は大きく、とりわけ、伝統校である大分鶴崎高等学校の「鶴高（つるたか）は、一人一人の進路目標を達成する」を合言葉とした教育に対して、将来を担う人材育成への期待と信頼が集まっています。

本校で学ぶ生徒の皆さんには、栄えある歴史と伝統を受け継ぎ、誇りを持って、学業に、そして文化・スポーツ活動にいそしみ、これまで伝統を築いてこられた先輩の方々以上に活躍されることを切に願っています。

結びに、大分鶴崎高等学校の今後ますますのご発展を心より祈念いたしまして、お祝いのことばとします。

祝 辞

大分県議会議長

安部 省祐（代理：副議長 瀧 健児）

菊薫る今日の佳き日、ここに大分県立大分鶴崎高等学校創立百周年記念式典が盛大に挙行されるに当たり、県議会を代表して、一言お祝いを申し上げます。

貴校は、明治43年に鶴崎女子技芸補習学校として創設され、戦後の学制改革により、昭和23年に大分県立鶴崎中学校、大分県鶴崎高等女学校及び大分県立鶴崎工業高校を廃止し、大分県立鶴崎高等学校へと発展を遂げられました。その後、昭和39年に大分県立大分鶴崎高等学校と改称して以来、学業はもとよりスポーツや文化活動など幅広い分野において、幾多の輝かしい成果を挙げられますとともに、本県をリードする多くの有為な人材を輩出し、ここに、めでたく百周年を迎えられました。

これは、ひとえに創立以来、情熱と愛情をもって教育にあたってこられた歴代校長並びに教職員各位のたゆまぬご努力と、保護者、同窓会、そして地域の皆様の厚いご支援、ご協力によるものであり、心からお慶びを申し上げますとともに、敬意を表する次第であります。

さて、近年、少子・高齢化や国際化、情報化の急速な進展など社会情勢が大きく変化する中、教育に対するニーズも多様化・高度化しており、豊かな人間性と創造性、幅広い視野と見識を兼ね備えた、たくましい人材の育成が強く求められています。

こうした中、「克己・友愛・創造」の校訓のもと、生徒一人ひとりの進路希望を達成させるとともに、地域社





会で活躍できる心豊かでたくましい人間の育成を教育目標に掲げ、常に地域に信頼される魅力ある学校づくりに邁進されておられます貴校には、広く県民から一段と大きな期待が寄せられています。

創立百周年を契機に、伝統校としての輝かしい歴史と誇りをさらに継承・発展させ、新たな伝統を積み重ねていただきたいと思います。

県議会といたしましても、高等学校教育は、郷土大分を支える活力ある人材の育成という観点から、大変重要と考えており、引き続き、その充実強化に全力を挙げて取り組んで参る所存であります。

終わりにになりましたが、大分県立大分鶴崎高等学校の今後益々のご発展と、本日ご参集の皆様方のご健勝、ご活躍を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

お祝いのことば

大分県教育委員会教育長
小矢 文則

大分県立大分鶴崎高等学校が創立百周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

本校は、明治43年4月に鶴崎町をはじめとした6町村立の鶴崎女子技芸補習学校として創設されました。その後、幾多の変遷を経て昭和19年に大分県鶴崎高等女学校となり、昭和23年の学制改革により大分県立鶴崎中学校、及び県立鶴崎工業学校と統合し、大分県立鶴崎高等学校が発足しました。発足当時は全日制普通科、工業科などが設置され、その後、昭和36年に工業科が大分県立鶴崎工業高等学校として分離独立したことにより、単独の全日制普通科高等学校となりました。さらに昭和39年4月には、校名を大分県立大分鶴崎高等学校に改め、現在に至っております。

このように本校は、明治、大正、昭和、平成の四つの時代にわたり、地元鶴崎に根差し、大分市東部地域の教育・文化の中心として、輝かしい歴史を築くとともに、県内はもとより全国で活躍する多くの優れた人材を輩出して参りました。近年では、普通科進学校として、一人ひとりが希望する進路目標の達成に、大きな成果をあげております。また、全国総合体育大会の常連である女子ハンドボール部、サッカー部などの運動部や、吹奏学部などの文化部が各種大会で優秀な成績を収めるなど、文武に秀でた伝統校としての地位を確立しております。

これもひとえに、地域の皆様の厚いご支援、ご協力の賜物であり、また歴代の学校長をはじめとする教職員の皆さんの限りない情熱、さらには学校の卒業生や生徒の



みなさんのたゆまぬ努力の結果であると、心から感謝申し上げます。

さて、現代は、社会や経済のグローバル化、少子・高齢化、情報化、産業構造の変容などが急速に進展しています。こうした社会情勢の変化を踏まえ、県教育委員会は、生徒一人ひとりの自己実現を図るための学力向上、豊かな人間性の育成、健康や体力の増進といった「生きる力」をはぐくむ学校教育を、積極的に推進しています。本年度は、「点から面へ」、「徹底」をキーワードに、優れた取組の共有と拡大に特に力を入れております。

生徒の皆さんは、百周年という記念すべき歴史の1ページを刻んだ感動を胸に、「克己・友愛・創造」の校訓と歌い継がれてきた校歌に過去の先輩方の努力の跡を偲ぶとともに、本校の第2世紀となるこれからの百年の新たな伝統の基礎を築いていってください。そして、激動の21世紀をたくましく生きぬく力を身につけ、大きな志をもって、それぞれの夢を実現されることを切に願っております。

最後になりましたが、ますます本校が隆盛の道を進まれますことを祈念しまして、お祝いのことばといたします。

祝 辞

大分県高等学校長協会 会長

山本 省悟

大分県立大分鶴崎高等学校創立百周年記念式典に当たり、誠におめでとうございます。大分県高等学校長協会を代表して、ご祝辞を申し上げます。

御校は明治43年（西暦1910年）鶴崎女子技芸補習学校として設立され、その後の大分県鶴崎高等女学校と昭和17年に設置された鶴崎町立鶴崎中学校、後の大分県立鶴崎中学校とが昭和23年4月学制改革により大分県立鶴崎高等学校となり、以後、佐賀関高校と鶴崎工業高校が分離独立し、昭和39年大分県立大分鶴崎高等学校と



改称され、今日に至っていると伺っています。

この間、歴代の校長先生方のリーダーシップのもと、普通科進学校として勉学に力を入れる一方で、体育文化活動面、学習面での活躍も素晴らしく、大分市東部地域の教育と文化を担う中核的学校として多大な貢献を果たしてされました。思えば、水泳の林^{あきら}亨選手の活躍は、大分のみならず日本全国に大きな感動と勇気を与えた偉業でありました。また、現在はハンドボール部、バスケットボール部、サッカー部等々、素晴らしい成果を残し続けています。

これらはひとえに、「文武両道」の校風を礎に、「克己・友愛・創造」の校訓のもと、「調和のとれた人間性豊かな人格の育成」をめざし、「個性の伸長」に取り組んでこられた成果であると考えます。

旧肥後藩お茶屋跡地に建つ大分鶴崎高等学校は、周囲を古刹や維新の先哲毛利空桑記念館に囲まれた誠に「文武両道」の校風にふさわしい学習環境にあります。

今後も地域に根差した高等学校として「ツルタカ」が一層の飛躍と発展をされますとともに、生徒の皆さんが自己実現に向け精進努力されますことを切に念じまして、創立百周年のお祝いの言葉といたします。

本日は誠にありがとうございました。

百周年記念の挨拶

同窓会長

外山 邦夫

このたび母校の創立百周年を同窓生の皆さんとともに、お喜び、お祝いを申し上げます。

顧みますと、母校は、これまで幾多の変遷と歴史を積み重ね現代に至ったわけですが、ここに至るまでの間、関係者の皆さんの教育に対する深い理解と熱意、そして懸命な努力によって多くの課題を克服し、現代の充実、発展が図られたわけであります。

今、母校を巣立った多くの卒業生は、同窓の絆を大切にしながら各界各層で活躍しています。

また、在校生の皆さんも、この恵まれた教育環境の中で、日々の学業に励む一方、文化、スポーツ活動にも頑張っており、数々の輝かしい実績を上げておられることは頼もしいかぎりです。

最近、社会の様々な分野において従来のシステムを見直し、大胆な改革が進められていますが、教育の分野においても、こうした新しい変化を踏まえ中長期的な展望に立ち不断の改革、充実を図っていくことが求められています。

このたびの百周年は、大きな節目ではありますが、今



後、さらに大きく飛躍、発展していくためのスタートでもあり、激動する社会の中で連綿と続く伝統を守りながら新しい歴史を築いていかなければならないと思います。

これまで歩んできた長い歴史と伝統を踏まえ、限りない発展に向け、名実ともに県下に誇る高等学校として、その地位を築いていかれることを心より祈念しお祝いの言葉とします。

お祝いのことば

PTA 会長

三浦 洋二

『我等に意気と力あり』『我等に夢と理想あり』

百周年を迎えたこの年、私はこの言葉に思いを強くしています。

大分県立大分鶴崎高等学校が創立百周年を迎えますことを在校生の保護者として、また卒業生の一人として心よりお慶び申し上げます。

ご来賓の皆様にはご多用の中ご臨席を賜り、誠にありがとうございます。

同窓生の方々、先生方、在校生の皆さんまたその保護者の皆様が、一堂に集い、百周年という歴史的瞬間に立ち会えたことに、この上ない喜びと誇りを感じております。

また現在まで学校教育環境の充実や、子どもたちの健全育成に携ってこられた同窓会・PTAの歴代会長や役員並びにに関係者の皆様に深く敬意を表します。

我が校は『克己・友愛・創造』の校訓のもと、文武両



道を貫き、地域の中核校として歴史を刻んで参りました。2万3千数百名の卒業生の方々一人一人が1年また1年と積み重ね、1世紀にも及ぶ時を刻んで、この歴史を築いてきたのです。

これもひとえに情熱をもって生徒と接してこられた歴代校長をはじめ、教職員の方々、関係者各位のご尽力の賜と深く感謝いたします。

在校生の皆さん、諸先輩方が刻み継承してこられた百年の歴史と伝統に誇りを持ち、今ここから新たな百年に向けての第一歩を踏み出し、大きな潮流を生み出すことを願ってやみません。

皆様と共に、この瞬間を深く胸に刻み大分鶴崎高校の益々のご発展を祈念してごあいさつとさせていただきます。

生徒代表あいさつ

生徒代表
工藤 璃央

今年、私たちの大分鶴崎高校は、創立百周年を迎えました。この大きな節目の年に、鶴高の歴史を刻む一員となってこの場に立てたことを心から誇りに思います。

私たち、生徒会執行部では、この記念すべき年をどのように迎えるべきか考え、広報誌などを通じ、全員に百周年という意識を定着させようと試みました。しかし、鶴高の歴史も知らず、百年という重みが理解できなかった私たちは、百周年と言われても実感が出来ませんでした。

私たちに百周年とは大切な年なのだという気持ちが湧き始めたのは、翔鶴祭の準備が始まってからでした。記念の年にふさわしい翔鶴祭にしようと、全てのクラスで百周年に関するものを取り入れて、協力して作業していくうちに、百周年に対する意識も次第に高まりました。そして、翔鶴祭初日のオープニングで、鶴高の歴史が流れたとき、現在に至るまでのたくさんの方々の思いを改めて目の当たりにし、百年の歴史の重みを感じて感動したのです。この翔鶴祭では、それぞれの場面で一人ひとりが活躍し、文化の部・体育の部ともに大成功を収め、最後は多くの観覧して下さった皆さんの前で、肩を組ん

で校歌を歌うことができました。

私たちが現在こうしてこの学校で活動できるのは、歴代の先輩方が鶴高を守り、伝統を築いて下さったからです。現在も同窓生の方々や、地域の皆さん、PTAの方々に支えていただいていると、日々実感しています。

ですが、私たちはPTAや地域の方々にご心配をおかけすることも多く、まだまだ努力して変わっていかねればなりません。校歌に「我等に意気と力あり」という一節があります。様々な場面で団結力と行動力を発揮できる鶴高生ですが、まだ可能性を秘めている部分も多いと思います。全員で、地域や学校全体のことを考え、学習や部活動など、みんなが活動しやすい雰囲気や環境をつくることができれば、なおいっそう素晴らしい学校になるのではないのでしょうか。

これから私たちは、これまで支えていただいた方々から、さらに愛される学校を目指して、努力を続けたいと思います。普段、当たり前のように行っている登下校や、すれ違う人々とのあいさつが、常に爽やかに出来るように、生徒一人ひとりが自覚を持ち、歴史や伝統を受け継ぎながら、前進を続けていきます。

校訓に「克己・友愛・創造」とあるように、学習や部活動で辛いことや苦しいことにもぶつかっても己に打ち勝つ心。友人や地域の方との信頼関係を築く心。そして、新しいものを創り出す心。これらを持つことが、私たち鶴高生の目標です。鶴高はこの百年の間に、大洪水や空襲で幾多の被害に遭いながら、何度も素晴らしい復興を成し遂げてきました。私たちもこの学校のように、「最後まで粘り強くあきらめない」という気持を忘れず、今日ここから、次の百年へスタートいたします。



記念講演

平成22年10月2日（土） 11:00～12:30
於 大分鶴崎高等学校 体育館



講師

高校7回生 昭和30年卒

しげふじ たけなお
重藤 毅直 氏

プロフィール

大阪市在住
日本造船株式会社 顧問
日中経済貿易センター 副会長



祝賀会

平成22年10月2日（土） 13:30～15:00
於 鶴崎ホテル



記念翔鶴祭 | 平成22年9月16日（木）～9月18日（土） （文化の部と体育大会連続実施）

文化の部 | 平成22年9月16日（木）～9月17日（金） 於 本校



体育大会 | 平成22年9月18日（土） 於 本校グラウンド



記念招待試合

野球 | 平成22年9月11日(土) 10:00～ 招待校 鶴崎工業高校
於 本校第2グラウンド



バスケットボール(女子) | 平成22年9月25日(土) 10:30～ 招待校 近畿大学付属福岡高校
於 本校体育館



サッカー

平成22年9月26日（日） 10:00～
於 九重町活ききランド多目的広場

招待校 国見高校



剣道(男・女)

平成22年10月17日（日） 10:00～
於 本校多目的競技場

招待校 杵築高校・中津北高校



ハンドボール

平成22年11月13日（土） 10:00～
於 本校多目的競技場

招待校 筑紫女学園高校



記念発表会

平成22年11月21日（日） 14:00～16:00
於 大分県立芸術会館 「鶴花繚乱」百周年記念依頼作品の演奏



記念作品展

平成22年12月21日（火）～12月26日（日） 10:00～18:00
於 県民ギャラリー（iichiko総合文化センター内）





写真：大分県鶴崎中学校（葛木台）正門と第2校舎

百年のあゆみ

OITA TSURUSAKI Senior High School

100th Anniversary

歴代校長

鶴崎女子技芸補習学校

鶴崎町外五ヶ村学校組合立鶴崎実科高等女学校

鶴崎町立実科高等女学校

鶴崎町立実業補習学校 (T11~)



初代校長
M43. 4~
岩津弥八郎



第2代校長
M44. 4~
河井 融



第3代校長
M45. 4~
川上 貫一



第4代校長
T 6. 6~
高田 善雄



第5代校長
T 15. 4~
一法師忠男

大分県鶴崎女子家政学校 (S6~)

大分県鶴崎実科高等女学校 (S10~)



第6代校長
T 15. 7~
挾間 亮



第7代校長
S4. 11~
佐藤 丈平



第8代校長
S8. 9~
利光 諒一



第9代校長
S11. 7~
中村 寿徳



第10代校長
S14. 9~
河村 林

大分県鶴崎高等女学校 (S19~)

鶴崎町立鶴崎中学校 (S17~)

大分県鶴崎中学校 (S18~)

大分県立鶴崎高等学校 (S23~)



第11代校長
S22. 4~
友永 悦三



中学校初代校長
S17. 4~
財前 幸六



第2代校長
S21. 6~
久保 誠



高等学校初代校長
S23. 4~
泰平 宮治



第2代校長
S24. 4~
利光 英三

大分県立東豊高等学校 (S25~)

大分県立鶴崎高等学校 (S28~)

大分県立大分鶴崎高等学校 (S39~)



第3代校長
S24. 9~
寺田卯之吉



第4代校長
S26. 4~
原尻 文重



第5代校長
S33. 4~
松本 五郎



第6代校長
S36. 4~
高木 来



第7代校長
S41. 4~
安東 本治



第8代校長
S44. 4～
生田 公之



第9代校長
S46. 4～
篠田九万太



第10代校長
S49. 4～
原田 徳三



第11代校長
S53. 4～
指原 直人



第12代校長
S54. 4～
糸永 正武



第13代校長
S56. 4～
真部 好



第14代校長
S58. 4～
堀 淳郎



第15代校長
S60. 4～
切石 文士



第16代校長
S62. 4～
浅田 修作



第17代校長
H元. 4～
井上 克己



第18代校長
H4. 4～
池田 邦彦



第19代校長
H7. 4～
笠木寛十郎



第20代校長
H9. 4～
小野 俊次



第21代校長
H12. 4～
河室 信義



第22代校長
H13. 4～
原 義典



第23代校長
H15. 4～
安部 義和



第24代校長
H18. 4～
宮崎 和則



25代校長
H20. 4～
内田 良三



26代校長
H21. 4～
堀江 道廣

◆百年のあゆみ

鶴崎女子技芸補習学校～

沿革

明治43年 (1910)

4月 付近六ヶ町村立鶴崎女子技芸補習学校が鶴崎高等小学校内に設置される。職員5名（訓導3名、代用教員2名。ほとんど小学校と兼任）で運営。

明治44年 (1911)

3月26日 19名が卒業。

4月13日 鶴崎町外五ヶ村学校組合立鶴崎実科高等女学校となる。本科（2年）・専修科（1年）を置く。入学試験を行ない、30名に入学を許可する。校長は鶴崎高等小学校長と兼任。この兼任の形式は、昭和17年河村校長が女学校専任となるまで続いた。

明治45年 (1912)

3月 10名が卒業。

4月 「鶴崎町外五ヶ村学校組合立」を解散し、鶴崎町に経営を移管、「鶴崎町立」となる。

大正 2年 (1913)

3月26日 13名が卒業。

大正 9年 (1920)

4月 経営不振のため、新入生（第1学年）の募集を中止する。

12月 鶴崎町立実業補習学校の設置が決まる。

大正10年 (1921)

3月26日 24名が卒業。その後、鶴崎町立実科高等女学校は廃校となる。

大正11年 (1922)

鶴崎町立実業補習学校が設置される。職員5名、生徒34名。

大正12年 (1923)

3月 12名が卒業。

大正13年 (1924) 生徒数52名。

大正14年 (1925) 生徒数67名。

大正15年 (1926) 生徒数83名。

昭和 2年 (1927) 生徒数94名。

昭和 3年 (1928)

4月 第1学年2学級、第2学年1学級、生徒数115名。他に、研究科1学級25名。漸く実業補習教育に対する認識も深まる。

昭和 4年 (1929)

11月 この当時の授業内容は、修身、国語、数学、家事、裁縫、体操、音楽、農業、作法などであったが、うち裁縫の授業時間が全授業の半分を占めていた。



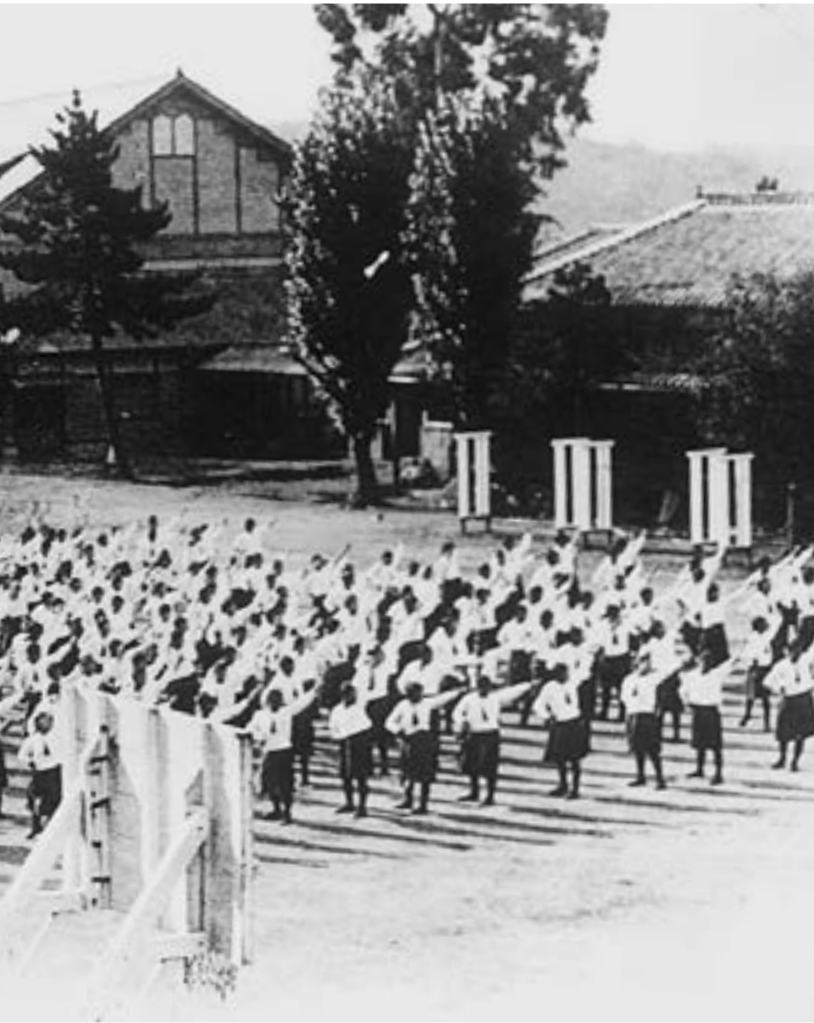
朝礼後のラジオ体操（女子家政学校 昭和10年頃）



正門横の奉安殿（天皇・皇后両陛下の御真影が安置され、校内への入出時に必ず礼拝した）

鶴崎高等女学校時代

明治43年～昭和23年



鶴崎実科高等女学校卒業記念（大正5年）

◆社会情勢

明治44年（1911）

- 1月18日 大逆事件判決
- 2月21日 日米通商航海条約調印
- 10月10日 辛亥革命

大正元年（1912）

- 1月 1日 中華民国成立
- 7月30日 明治天皇死去

大正3年（1914）

- 7月28日 第一次世界大戦勃発
- 8月15日 パナマ運河開通
- 9月 2日 日本、山東省に出兵

大正7年（1918）

- 8月 2日 シベリア出兵宣言
- 8月 3日 米騒動
- 8月11日 日本、ウラジオストクに上陸
- 9月29日 原敬内閣成立
- 11月11日 第一次世界大戦休戦条約調印

大正9年（1920）

- 11月15日 第1回国際連盟総会開く

大正10年（1921）

- 11月 4日 原首相暗殺

大正11年（1922）

- 2月 6日 ワシントン軍縮条約調印

大正12年（1923）

- 3月10日 中国、日華条約廃棄を通告
- 9月 1日 関東大震災

大正13年（1924）

- 1月26日 裕仁親王結婚
- 7月 5日 第8回五輪パリ大会開催

昭和元年（1926）

- 12月 5日 社会民衆党結成

昭和2年（1927）

- 3月15日 金融恐慌

昭和3年（1928）

- 2月20日 第1回普通選挙

昭和4年（1929）

- 10月24日 世界経済恐慌始まる

沿革

昭和 6年 (1931)

- 5月 校名を大分県鶴崎女子家政学校と改称。
- 10月30日～11月1日にかけて校名変更記念祝賀式および展覧会が開かれる。

昭和 7年 (1932) 生徒数226名。

- 7月 帰宅途上の生徒3名乙津川で溺死。
- 10月 愛国大分号献納飛行機命名式に参列。

昭和10年 (1935)

- 4月 大分県鶴崎実科高等女学校となる。家政学校生248名は、試験の上、それぞれ実科高等女学校の相当学年に編入。職員18名、生徒定員300名。授業料月額1円50銭。

昭和13年 (1938)

- 3月 入学資格を尋常小卒、修業年限を4年とする。職員17名、生徒定員400名、授業料月額2円50銭。
- 10月 県バレーボール大会で準優勝。

昭和15年 (1940)

定員600名、12学級となり、教室の増築が行なわれる。このころから戦時色が濃くなり、それに即した学校行事が多くなった。

昭和17年 (1942)

- 4月 研究科を廃止し、授業料月額3円とする。戦時教育の盛んな時期で、住友化学、大同製鋼等への勤労動員もはじまった。この年より河村林校長は女学校専任となる。

昭和18年 (1943)

- 9月20日 台風による大野川氾濫の為、校舎に大被害をうけた。復興作業が全力をあげて行なわれた。

昭和19年 (1944)

- 4月 中学校令の改正で校名が変更し大分県鶴崎高等女学校となる。授業料月額4円になった。
- 7月 「有事ニ際シ戦時救護ニ従事」できるように看護婦学校に指定された。

昭和20年 (1945)

- 8月 9日 空襲をうけ校舎の一部に被害あり。
- 8月15日 終戦。
- 12月 授業料8円に値上げされる。

昭和21年 (1946)

- 9月 授業料15円に値上げされる。

昭和22年 (1947)

- 5月 三佐の元海軍送信所跡に移転。
- 10月 移転祝賀式を挙行。

昭和23年 (1948)

- 4月 新制高校の発足により、大分県立鶴崎高等学校に統合される。



女子家政学校での洋裁実習授業風景（昭和7～8年頃）



県下上位の常連として活躍した鶴女バレーボール部



女学校と小学校の校舎全景（昭和10年頃）



懐かしの実科高女校舎（東側校門付近より写す）



女学校・小学校の校門付近（昭和17年頃）



◆社会情勢

昭和6年（1931）

9月18日 満州事変

昭和7年（1932）

1月28日 上海事変

5月15日 五・一五事件、犬養首相ら暗殺

昭和8年（1933）

1月30日 ヒトラー独首相就任

3月 4日 ルーズベルト米大統領就任

3月27日 日本、国際連盟脱退

昭和11年（1936）

2月26日 二・二六事件、戒厳令

12月12日 西安事件

昭和13年（1938）

11月 3日 東亜新秩序声明

昭和15年（1940）

9月27日 日独伊3国同盟調印

昭和16年（1941）

3月 1日 国民学校令公布

4月13日 日ソ中立条約調印

12月 8日 日本、米英に宣戦

昭和18年（1943）

11月 5日 大東亜会議

昭和19年（1944）

3月10日 東京大空襲

昭和20年（1945）

4月 5日 ソ連、日ソ中立条約廃棄

7月17日 ポツダム会談

8月 6日 広島に原爆投下

8月 9日 ソ連、日本に宣戦／長崎に原爆投下

8月15日 日本無条件降伏、太平洋戦争終結

昭和21年（1946）

2月 1日 第一次農地改革

5月22日 第一次吉田内閣成立

7月 1日 米、ビキニ諸島で原爆実験

昭和23年（1948）

1月26日 帝銀事件

1月30日 ガンジー暗殺

8月14日 大韓民国独立

9月 9日 朝鮮民主主義人民共和国成立

10月19日 第二次吉田内閣成立



実科高女、第一回生（昭和11年）

女子技芸在学中の思い出

女子技芸・本科 明治44年卒

宇野 タツ

なにせ今から50年も前のことになるのでうろ覚えのことが多いと思うのですが、私は当時義務教育であった尋常小学校4年から高等小学校（この頃大分郡内の高等小学校は6校だけしかなかったので、鶴崎には近郊の各地から入学してきました。）の課程に進み、ここで4ヶ年を終えて更に創立したばかりの女子技芸補習学校へ入学しました。家業が農業・商業・漁業であまり経済的に裕福でない家庭の子弟はその大部分が義務教育のみで家庭人・社会人となっていたので、私などのように高等小学校からもう一つ上級の学校へ進めたのはほんとうに恵まれた方でした。入学時は応募者が少なくて形だけの簡単な試験があったように記憶しています。

学校の位置は現在の鶴崎小学校の南校舎の付近であったようです。教育の様子は本科と研究科の二つに分かれ、本科は修業年限が2年、研究科は本科を終えた者がなお実習専門に技術を修得するために在籍できる仕組みになっていて1年以上何年でも通学できたが殆んどどの者が1年で卒業していました。私は本科でし

たので同級生僅かに15名、毎日お裁縫（和裁）と手芸、とくに造花の実習が中心で袋もの・箱狭子・子供婦人用の各種バッグなどを作ったり致しました。

印象的な思い出としては運動の方でテニスが盛んであったこと、これはずっと後まで伝統的なものになっていったようですが、またそういう運動時（運動会も同じでしたが）の服装が現在に比べたら異様な格好だったなあと想像されおかしくなりません。女子はすべてが和服でしたのでたとえ運動の時でも白い襦袢（膚にじかに着る下着）に下は袴をはき、その裾を巻き込んで走ったり跳ねたりしたものでした。また遠足などは同じ服装で弁当などは風呂敷に包んで腰に巻きつけるといふ馬車引きのおっさんの恰好で、しかも下駄ばきで歩いたものでした。次に私の高等小学校時代は非常に厳しくて成績の悪いものは容赦なく落第していたのですが、女子技芸ではさすがに女子ばかりの学校であったからか落第はなく、逆に成績の優良者については特進制度みたいなのがあって、いつでも上級の学年に進級させたり、卒業を早めたりしていましたが、今では夢のように思われるでしょう。私は1年で卒業しましたが、晴れの卒業式には参列できず残念でした。

（60周年記念誌より転載）



バレーの選手たち。
県大会で上位入賞した
(昭和11年頃)



国語の授業風景 (昭和11年頃)



生花実習の時間。めいめいの作品の前に (昭和11年頃)



青崎海岸で毎年行われた海水浴 (昭和11年頃)



放課とともに自宅をめざす自転車通学生 (昭和11年頃)



運動会で 題して「夏のワルツ」



屋外での染色実習（昭和12年頃）



実科高女生の長刀演技
小学校との合同運動会で（昭和14年）



茶道実習 懐かしい夏の制服



数学の授業風景



修学旅行 榎原神宮にて



バレーボールはたいそう強かった



勤労作業。寺司浜の島にて



修学旅行先にて



運動会。かぶった帽子は体育専用



校門付近。白いハリ塚は今も残っている

学徒動員の 明け暮れだった 高女時代

昭和19年卒
昭和20年8月専攻科修了生

谷 サツ子



大分県立大分鶴崎高等学校開校百年お目出度ございます。心よりお慶び申し上げます。

立派に今日まで引継いで来られた後輩達と指導運営管理増改築建設等に携った関係者諸先生方のご苦労と努力の賜と感謝申し上げます。

想えば昭和16年4月に入学、今母校に思いを廻らすと60年前の当時が走馬灯の様に蘇って来ます、紺のセーラー服に白袴カバー鬘スカートの制服で登校しました。授業は週間課目表に依り英語教科書「ガールズニユーキャピタルリーダーズ」上下巻を学び体育は薙刀や平均運動をしました。国語数学公民理科歴史等は普通の授業でした。部活はバレーボール9人制に入って、日が暮れるまで楽しくやっていた事を思い出します。文化的な行事は毎年3月6日地久節に鶴崎地区6ヶ町村の学校合同で鶴小の講堂で学芸会をして居ました。高女からも出演し、ダンス「美しき青きドナウ」ワルツを8名で踊りました。

ダンスシューズは廃物利用で各自仲良く手造りです。

薙刀の時は裸足で白鉢巻、身の丈程ある薙刀を振り掛声「エイ、ヤァ」気合を入れてする様は当時見事だったそうです。2年生に成ると救急法の講義が取入れ、病院長先生の授業が始まりました。最初人体の構造から入り体の各名称の時足の人指し指と云って皆で大笑いした事を思い出します。又、三角布を使って止血の場所方法等大切な事を沢山習いました。

血液型も此時皆で調べ確認し合いました。

講義終了後は町内の病院、診療所に班単位で実習に出掛ました。雑納鞆を毎日さげて行き三角布等入れ鞆表には血液型住所氏名を明記して居ました。

昭和19年3年生になると学徒動員は毎日です。佐伯の海軍航空隊へ3日通いました。駅前から四列縦隊で白鉢巻をキリリと締めて学徒動員の歌を声高らかに歌って行った事を懐かしく想います。

此の頃は食糧事情も最悪、運動場は芋畑に様変わりしました。戦局は日々激しくなり動員先の大同製鋼労働課指導係で終戦を迎えました。戦時中いろいろな艱難辛苦を体験したお陰で日常生活に耐える精神面も強くなり人生勉強に成った事を有難く思います。

皆様これからは平和で倅せの毎日でありませう様にご長寿とご繁栄を祈念申し上げます。





女学生による災害復旧作業
モンベ着用が義務づけられた（昭和18年）



出征兵士の武運長久を祈る朝礼時の黙とう



三佐の仮校舎で記念撮影。まだモンベが目立つ（昭和22年）

◆百年のあゆみ

鶴崎中学校時代

沿革

昭和17年 (1942)

- 3月 鶴崎町立鶴崎中学校の設立が認可される。鶴崎町長矢野政夫が校長事務取扱となる。
- 4月20日 入学試験実施、120人が合格。
- 4月28日 開校式および第一期生入学式を挙げる。鶴崎第一国民学校（現鶴崎小学校）の講堂を仕切って授業開始。授業料月額6円。
- 6月28日 大分県鶴崎中学校と改称。

昭和18年 (1943)

- 2月26日 新校舎入校式挙る、授業開始。
- 9月20日 台風による大野川氾濫のため、校舎・校具のすべてが流失。
- 10月 6日 復興始業式、町内小学校や青年学校専想寺等で分散授業が始まった。
- 10月22日 組合立衛生病院を改造して仮校舎とする。

昭和19年 (1944)

- 10月 3年生104名学徒勤労働員に出動（大同製鋼、住友化学、福岡の昭和鉄工など）。1、2年生は近郊の援農・土木作業等に動員された。

昭和20年 (1945)

- 2月 葛木校舎に新築移転。
- 8月15日 終戦、学徒動員解除。
- 9月 動員学生が帰校したため校舎が不足、校長室や職員室をふくめて8教室の1棟で二部制（午前組、午後組とわかれる）授業がはじまる。
- 10月 4年生、3年生に進学補習授業開始。

昭和21年 (1946)

- 3月23日 中学第1回卒業式（第1期生62名）。

昭和22年 (1947)

- 5月 増築校舎10教室落成、一斉授業再開。
- 7月 戦後第1回中等学校硬式野球リーグ戦に出場。

昭和23年 (1948)

- 3月 旧制中学第3回卒業式、および新制中学第1回卒業式挙る。
- 4月 新制高校の発足により、大分県立鶴崎高等学校に統合される。

昭和24年 (1949)

- 3月 旧制中学第4回卒業式。このとき新制高校2年に編入されていた20名が旧制中学5年生として最後の卒業式をあげた。



大分県鶴崎中学校校旗



（昭和17年頃アルバム）



入学考査（昭和17年頃アルバム）

昭和17年～昭和23年



視閲（昭和17年頃アルバム）



假校舎（鶴崎第一國民學校、鶴崎高女）（昭和17年頃アルバム）



假校舎（鶴崎第一國民學校、鶴崎高女）（昭和17年頃アルバム）

大分県鶴崎中学校校歌

- 一、悠揚として 大野川
めぐらすほとり朝夕に
仰ぐ九六位 望む由布
風晴れわたる学舎は
清新の氣に今満てり
- 二、輝く歴史先哲が
築きしところ春や秋
貫く至誠継ぐ遺風
みことかしこみ修むべき
皇国の道は一すじに
- 三、凜たる気魄向上の
光に映えて潑刺と
鍛ゆる体錬る心
嵐に霜にたゆみなく
学びの業にいそしまん
- 四、花橘の香にかほる
誇に勢ふ兄弟の
誓いは固し意気昂し
久遠のあかりかがやかに
かざして目ざす大理想



新本校舎（昭和17年頃アルバム）



創立当初ノ假校舎（鶴崎第一國民學校講堂）（昭和17年頃アルバム）



假校舎（鶴崎第一國民學校、鶴崎高女）（昭和17年頃アルバム）



創立当初ノ教務室（昭和17年頃アルバム）



假校舎校門（昭和17年頃アルバム）



教室二向カッテ（昭和17年頃アルバム）



晝間裸体体操（昭和17年頃アルバム）



第1回体練大会（三校聯合）（昭和17年頃アルバム）



第1回体練大会（三校聯合）（昭和17年頃アルバム）



校地作業（昭和17年頃アルバム）



隊旗（昭和17年頃アルバム）



養護生ノ訓練（昭和17年頃アルバム）



女ノ學生モ手傳ッテ（昭和17年頃アルバム）



本校舎移轉（昭和17年頃アルバム）



新本校舎（昭和17年頃アルバム）



假校舎ヲ後ニ（昭和17年頃アルバム）



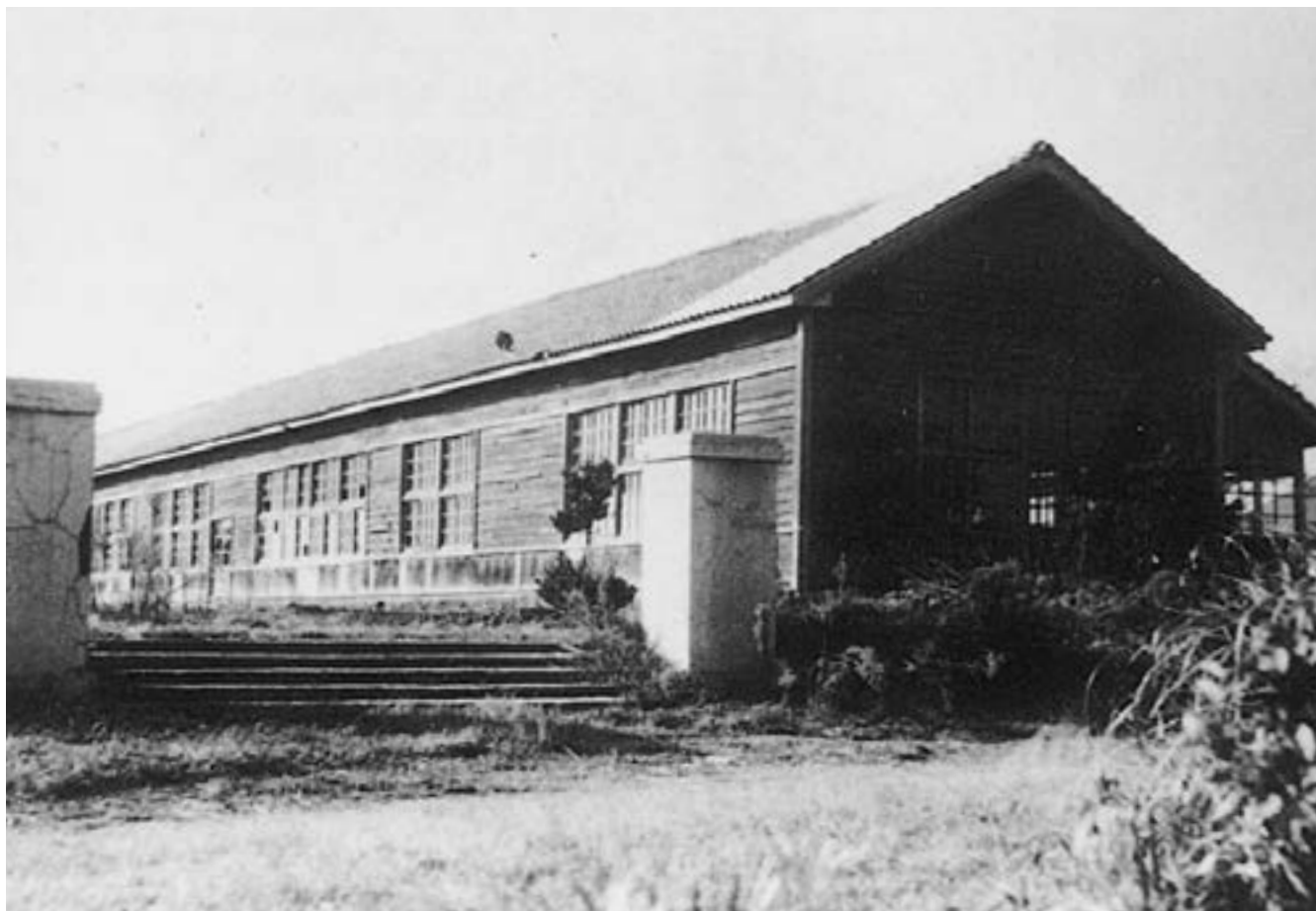
中学校新入生（先方）を迎える鶴小生たち（手前）との対面式（昭和17年5月鶴小校庭）



昼食（昭和17年頃アルバム）



假新校舎（昭和17年頃アルバム）



待望の鶴崎中学校校舎（葛木台、昭和20年2月完成）



朝禮（昭和17年頃アルバム）



道路奉仕作業（昭和17年頃アルバム）

試練に耐えて

昭和22年卒 高2回生

高田 信一



卒業して63年。久しぶりに所属する歴史研究会の鶴崎巡りで鶴崎高校の周囲を散策する機会を得た。立派な校舎を前にして勉強したくても十分にできなかった思い出が甦った。それから暫くしてこの原稿依頼を受け、これも縁かと再び当時に思いを馳せてみる。

第1期生の私たちは入学はしたもののまだ校舎がなく、大戦開戦の5ヶ月後に鶴崎小学校の講堂で入学式を行い、当分の間講堂で授業を受けたが、講堂の西側に2階建の4教室が新築されてからはその2階で学習した。ここでの10ヶ月間は戦時中であり、「強い身体、強い意志を育てることが急務であり、多少の不自由は我慢せよ。」という時代だった。

午後は曜日を決めて校地の整地作業に全員で取り組み、翌年2月に待望の校舎が完成し、移転した。場所は鶴小より3km南の乙津川畔森河原である。

新校舎は静かで、広々として運動場があり、すばらしい学習環境であった。だが6ヶ月後の大洪水で校舎諸共流失した。昭和18年9月20日のことだった。校舎完成の喜びもつかの間……また私たちは振り出しに戻り旧避病院、近隣小学校、専想寺等々にご迷惑をかけながらの授業再開となった。

そして3年に進級したものの、折しも学徒動員令により昭和19年10月15日に福岡市箱崎の昭和鉄工所に派遣され再び勉強の機会を割かれることとなった。仕事は未経験の旋盤操作による物作り。間もなく馴れたが、生憎食糧事情が悪く脚氣にかかり2週間自宅療養。全治して再び復帰。間もなく敗戦となり帰校。久しぶりの学校は2部授業を余儀なくされたが、やっと本腰入れて勉強できる幸せを胸に寸暇を惜しんで精進した。先生方の熱心なご指導により、お蔭で目指す学校へ進学できたことを学友とともども喜びあったものである。

冷房付きの校舎、数ある参考書や塾通いと恵まれた環境下で学習できている現在の生徒たちをうらやましく思うが、過ぎし日の数々の試練が学友たちとの横の結びつきを強くし、その後の人間形成に大きく関わることになり決して無駄な体験ではなかった。

終わりに創立百周年おめでとうございます。鶴崎高校の今後の発展と後輩たちの精進を期待します。

◆百年のあゆみ

県立鶴崎高等学校時代

沿革

昭和23年 (1948)

- 4月 鶴崎中学校、鶴崎高等女学校が統合、大分県立鶴崎高等学校が発足。葛木校舎は第一部、工業と女学校は合併して第二部と呼ばれた。
- 4月 第一部（葛木校舎）に女学校から2名の転入があり、男女共学がはじまった。
- 4月20日 開学式挙行。
- 6月 定時制を置く（葛木校舎が中心校となり戸次に分校を設置）。
- 9月 ラグビー部、県大会で優勝。19日より3日間、開学記念祭挙行。
- 10月 東校舎2階建4教室が完成。
- 11月 旧女学校が、東校舎（旧工業）内に移転、完全に男女共学となった。

昭和24年 (1949)

- 3月 新制高校第一回卒業式（卒業生50名）。
- 4月 この年の新1年生の数は、第一部147名（内女子24名）、第二部263名（工業課程150名、家庭科113名）。
- 6月 台風のため、葛木校舎の一棟が大破。
- 9月 ラグビー部、県大会で優勝。第二部北校舎2階建4教室完成。

昭和25年 (1950)

- 3月 全県一斉同一問題による高校入試はじまる。この年290名が入学。
- 4月 学区制の施行により、臼杵高校の定時制分校であった坂の市・佐賀関校舎を併合、大分県立東豊高等学校と改名。また戸次分校は分離して県立大分第二高等学校戸次分校となった。

昭和26年 (1951)

- 2月 東校舎の化学教室1棟焼失。
- 9月 東校舎に二階建6教室完成。
- 10月 台風により東・西校舎とも被害大。
- 11月 ラグビー部、県大会で優勝。つづいて南九州大会で優勝。

昭和27年 (1952)

- 東校舎に二階建12教室完成。
- 9月 西校舎（葛木校舎）を廃棄、東校舎に統合して鶴崎校舎とした。

昭和28年 (1953)

- 4月 坂の市校舎・佐賀関校舎が分離して独立、本校は大分県立鶴崎高等学校となる。



授業風景（昭和28年アルバム）

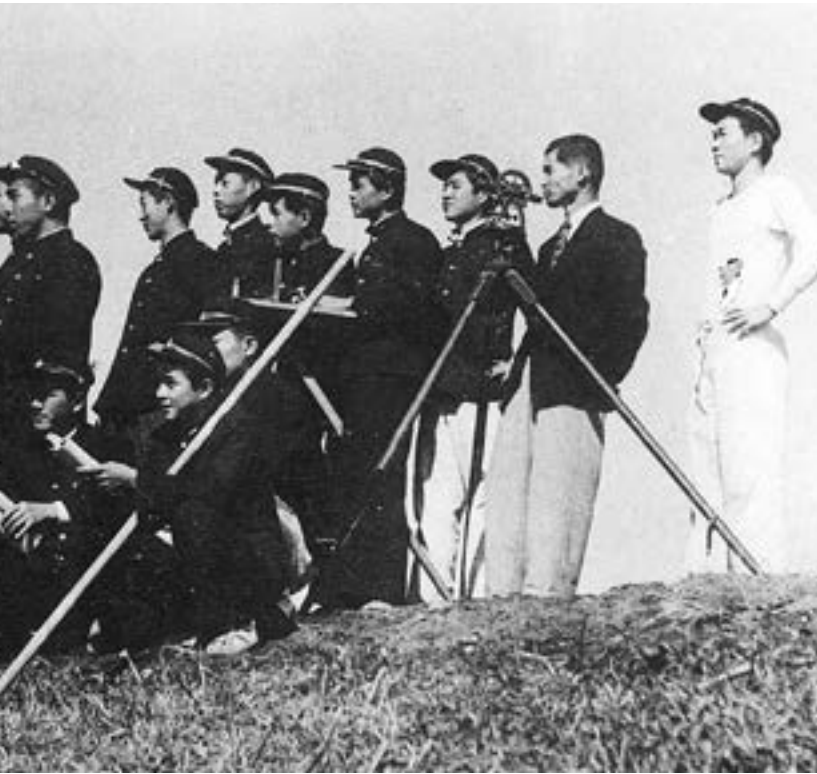


青空集会場での全校朝礼



放課の一時（昭和28年アルバム）

昭和23年～昭和39年



科学部（昭和28年アルバム）



試験風景（昭和28年アルバム）

◆社会情勢

昭和24年（1949）

- 4月 4日 NATO 発足
- 7月 5日 下山事件
- 7月15日 三鷹事件
- 8月17日 松川事件
- 9月23日 米大統領、ソ連の原爆保有発表
- 10月 1日 中華人民共和国成立
- 10月 7日 ドイツ民主共和国成立
- 11月 3日 湯川秀樹博士にノーベル物理学賞

昭和25年（1950）

- 2月14日 中ソ同盟相互援助条約調印
- 6月 6日 日共幹部追放令
- 6月25日 朝鮮戦争勃発
- 10月25日 朝鮮戦争、中国義勇軍参戦

昭和26年（1951）

- 3月15日 イラン、石油国有化
- 4月11日 マッカーサー連合軍最高司令官解任
- 4月18日 シューマン計画調印
- 7月10日 朝鮮休戦会談
- 9月 8日 対日講和、日米安保条約調印
- 10月24日 社会党分裂

昭和27年（1952）

- 2月 6日 エリザベス英女王即位
- 2月28日 日米行政協定調印
- 4月28日 講和・安保両条約発効／日華条約調印
- 5月 1日 血のメーデー
- 6月 1日 日中間貿易協定
- 6月 9日 日印平和条約調印
- 7月19日 第15回五輪ヘルシンキ大会開催
- 7月21日 破防法公布
- 7月23日 エジプトでクーデター
- 10月 3日 英、初の原爆実験
- 11月 1日 米、水爆実験
- 11月 4日 アイゼンハワー、米大統領に当選

昭和28年（1953）

- 3月 5日 スターリン・ソ連首相死去
- 3月18日 鳩山派、自由党結成
- 5月29日 英登山隊、エベレスト初登頂に成功
- 6月17日 東ベルリンのデモ暴動化
- 7月27日 朝鮮休戦協定調印
- 8月20日 ソ連、水爆実験を発表

沿革

- 5月 第1回生徒大会。
 9月 校歌・応援歌を制定。
 10月 鶴高として初の運動会挙行。
昭和29年 (1954)
 9月 新校舎が完成。男子卓球部、県大会で優勝。
 11月 産業教育70周年記念式・展覧会。
昭和30年 (1955)
 8月 駅伝、大分県大会で優勝。全国大会に出場。なお駅伝の県大会の優勝は昭和36年まで連続7連勝である。
昭和31年 (1956)
 2月 県下高校弁論大会五位入賞。
昭和33年 (1958)
 3月 体育館落成。
昭和34年 (1959)
 駅伝、全国大会で五位。体操部、県大会で優勝。全国緑化コンクール二位。
昭和36年 (1961)
 4月 工業科が独立、本校は普通科のみとなる。
 9月 体操部、県大会で優勝。
昭和39年 (1964)
 4月 大分県立大分鶴崎高等学校と校名変更。本館第一期工事竣工。野球部、県大会で優勝。クラブ活動が盛んになる。



木工（昭和28年アルバム）



授業風景（昭和28年アルバム）



化学（昭和28年アルバム）

惜別の歌

作詞・曲 金山 道玄

- 一、静かに来れ吾が友よ
 憂いの心を鎮ませて
 この一時の追憶に
 消え行く若き日を送らん
- 二、われらが影を落したる
 この庭この日想い出が
 見よ、音もなく風立ちて
 永劫の彼方に去るぞかし
- 三、同じ想いに憧れを
 秘めて歩きし三年が
 げに、萌え出づる春のごと
 涙にかすみ溶けやらぬ
- 四、斯くも静かに去り行くか
 愛と誠に契る日が
 奇しき縁と思ひなば
 魂の別離と泣く勿れ
- 五、ああ、青春は今かく
 また帰り来ぬ生命なれ
 宴も黙みしこの庭に
 足音も無き「時」の舞
- 六、ああ、友よみな美き夢に
 去り行く影を踏みしめて
 悲傷を秘め眉上げて
 この一時を惜まん
 別れの歌に微笑まん



新聞部（昭和28年アルバム）



（昭和28年アルバム）



卓球部（昭和28年アルバム）

◆社会情勢

昭和29年（1954）

1月21日 世界初の米原子力潜水艦ノーチラス進水

3月 1日 ビキニ諸島、水爆で被災

7月 1日 防衛庁、自衛隊発足

昭和30年（1955）

11月15日 自民党結成

昭和31年（1956）

10月 4日 砂川事件（～15日）

10月19日 日ソ国交回復

昭和32年（1957）

1月29日 南極・昭和基地開設

10月 4日 ソ連、世界初の人工衛星打ち上げ

昭和33年（1958）

1月31日 米、人工衛星第1号打ち上げ

7月14日 イラクでクーデター

昭和34年（1959）

1月 2日 ソ連、月ロケット打ち上げ

4月10日 皇太子様ご結婚

10月 4日 ソ連、惑星間ステーション打ち上げ成功、月の裏側の写真撮影

昭和35年（1960）

1月20日 日米新安保条約、行政協定調印

1月24日 民社党結成

昭和36年（1961）

9月30日 OECD 発足

昭和37年（1962）

11月 9日 日中貿易覚書調印

昭和38年（1963）

11月22日 ケネディ米大統領、ダラスで暗殺

昭和39年（1964）

4月 1日 日本人の観光渡航自由化／IMF8条国に移行

10月 1日 東海道新幹線開通

10月10日 第18回五輪東京大会開催

11月17日 公明党結成



家庭科実習風景（昭和33年アルバム）



工業化学科実習風景（昭和33年アルバム）



運動会（昭和33年アルバム）



建築科実習風景（昭和33年アルバム）



航空写真



茶道（昭和33年アルバム）



高校駅伝三連勝の碑（昭和33年アルバム）



鶴高で培われた 師弟の絆と友情

昭和27年卒 高4回生

須股 博信



昭和21年9月、中国北東部から引揚げて、葛木台の鶴崎中学校1年生へ転入学した。当時は教室不足のため午前組と午後組に分れて二部制授業、校舎は貧弱だったが、教師と生徒が汗にまみれて校舎増築の作業をするなど清新の気に満ちていた。

学制改革で大分県立鶴崎高等学校になり、中学生は順送りで高校生になったが、21年入学生は25年3月までの4年間、最下級生の生活を余儀なくされた。しかし24年春に鶴崎高等女学校から24名が転入、25年は待望の後輩が入学、26年はラグビー部が県大会と南九州大会で優勝して活気づいていた。

この年、ラグビー部員のM君の家へ夏祭りに行った。彼の勉強部屋には大きな砂袋が吊り下がっていて「これにタックルして眠気を覚まして受験勉強しているんだ」学校では素振りさえ見せなかったが、部活と受験勉強を両立して頑張っているのに驚いた。

引揚げ者で5人弟妹の長男、進路を決めかねていた時、HR主任のT先生、陸上部の顧問で生徒と競争して走る若さであったが「時代は変わる、学問はしておけ」

と進学を強く勧めてくれた。M君とサウンドバックはこれを後押しする結果となった。

先生方の思い出は山ほどある。国語のK先生の詩の朗読は脳裏に刻まれている。藤村の「小諸なる古城のほとり」今でも語ることができる。光太郎の「牛はのろのろと歩く…」大地を踏みしめるような口調を思い出す。

生物のK先生の蔵書は自由に持ち帰って読んだ。読書だけでは飽き足らずに有志で演劇部を創設、先生の指導でチェーホフの「桜の園」に挑戦したが、練習の甲斐なく陽の目を見なかった。しかし、一緒に山へ登り、飯ごうの飯を分けて食べ、人生や恋愛を語った仲間は今も親交が続いている。

K先生のエピソードは多い。下手な字もその一つ、先生からの「謹賀新年」の活字の右に、ミミズが這ったような筆跡があった。はて？あれこれ考えた末に「どうか」と判読した。わずかに3字、されど深い愛情を感じる言葉であった。

「葬儀は不要、黒潮へ散骨」といった先生の遺志を尊重して逝去された日、私達の仲間は、大野川で菜の花を摘み祭壇をつくって献花。足摺岬沖で散骨。平成21年の十七回忌は全国各地から仲間が集まった。



昭和25年夏・高校2年生当時の演劇部メンバーと顧問の古城稔二先生



木材工芸科実習風景（昭和33年アルバム）



木工部
作品
展示
会場



家庭科実習風景（昭和33年アルバム）



普通科授業風景（昭和33年アルバム）



校舎（昭和33年アルバム）



卒業式（昭和33年アルバム）



体育館（昭和33年アルバム）

校歌誕生

昭和30年卒 高7回生

園田 陽子



昭和27年4月入学。

校名は「大分県立東豊高等学校」でした。

増築中の校舎は、4月にはまだ出来上がっていませんでしたので、1学期の間は明治地区の葛木にあった旧校舎に通いました。黒板と机・椅子があるだけの殺風景な教室で高校生活がスタートしました。今思い返すと、学校とは言えないような環境でしたが、希望に燃えてわくわくした気持ちで過ごしたように思います。殆どどの人が徒歩通学でした。その中ある先輩（女子）が、いつも辞書を見ながら歩いていた姿が思い出されます。

○昭和28年4月。

校名が「大分県立鶴崎高等学校」に改称されました。（坂ノ市校舎が独立し、東豊高校となる）

そして、9月に校歌が誕生しました。

今、当時の校舎は残っていませんが、校歌は母校をなつかしく思い出させてくれます。

○昭和29年5月。

私たち進学コースは修学旅行がなく、その代わりと

して、耶馬溪を巡り日田で一泊するバス旅行がありました。短い時間でしたが受験勉強を忘れ、三隈川でボート遊びもできたことは、とても楽しかった思い出です。

○昭和30年3月卒業。

まだ体育館はなかったので、屋外集会場での卒業式だったと思います。丸太を半分にしたものをベンチのように固定した青空天井の集会場は、忘れられない場所です。

○平成22年3月。

卒業して55年の歳月が過ぎました。記憶も随分うすれてきましたが、当時は経済的には苦しい時代で女子の服装等是不揃いでした。でも学生生活は明るく、それぞれの目標に向かって頑張っていたように思います。そしてその中で育まれた友情は、古希を過ぎた今も続いています。

今の鶴高はすべてが充実し、生き生きとした学生生活がかい間見ることができます。この平和な時代がいつまでも続き、校歌がいつまでも歌い継がれ、母校が益々発展しますことを、心からお祈りいたしております。





校舎（昭和35年アルバム）



日本間（昭和35年アルバム）



洗濯室（昭和35年アルバム）



工業化学科実習風景（昭和35年アルバム）



登校風景（昭和35年アルバム）



木工科実習風景（昭和35年アルバム）

建築科実習風景
（昭和35年アルバム）

緋寒桜

昭和38年卒 高15回生

河室 薫



「あそこから あの場所からもう一度やり直したいの……」という歌詞の唄がある。私は今の境遇に充分満足をしているが、あえてこの詞が叶えられるなら、将に鶴崎高校在学中かと。勉学はさることながら（数学がすこぶる苦手だったことは今も変わらないが）先生のこと、友達のこと、文芸部のこと、放送部のこと等々とてもなつかしい。充分に高校生活をエンジョイしていた3年の2学期のこと、中学の制服姿の弟が、丁度担任の国語の授業中にノックして「あのう、利根ですけど父が仕事場で事故にあったので姉を……。」と言う。慌てて早退して、世利川遂道の事故現場へ。それから先は思い出すのも辛い。父はこの日、昭和37年10月19日、53歳の若さでこの世を去った。その一部始終の悲しい思いは当時の文芸部の機関誌「遠い道程」に綴った。年を経て今、同窓会の副会長として母校を訪れる機会が

年に数回あり現文芸部顧問の先生から「遠い道程」の復刻本をいただき、また新たな涙を流した。

当時すでに苦手な科目を除いて、国語系の私立の大学を目ざしていたのを、東京へはやれないという事態になり、再び5科目の国立に戻して、地元の大学を受験したが、案の定“桜散る”であった。もし父が急逝しなかったら一体、私はどんな人生を送っていただろう。なりたかった国語の先生にはなれていただろうか？どんな人と結婚をして、今どこに住んでいたろうか？けれども母校の百年祭に身近に関われること、一生地元にて鶴崎踊保存会の一員として毎年2年生女子に鶴崎踊りの指導をさせて頂いていること、入学式や卒業式にお招きいただき、現在の高校生とお下げ髪だった当時の自分とを重ね合わせながら、校歌を口ずさむ幸せを噛みしめている私が今、ここにいる。

今年も校門のそばの緋寒桜が美しく咲いていた。そしてこの花は在学当時は職員室への渡り廊下の放送部室のすぐそばにあり私の大好きな花であった。





陸上部（昭和35年アルバム）



図書室（昭和38年アルバム）



建設中校舎

数学の先生になった私

昭和33年卒 高10回生

岸田 孝義



昭和33年4月、入学してすぐの体重は39kg身長154cmで、クラスで一番のチビでした。

家で牛を飼っていて、朝5時に起きて、牛の餌の草切りに行きます。狭いあぜ道なので荷車は使えません。六尺棒で一荷を担いで帰りますが、筋肉の付いていない肩に容赦なく六尺棒が食い込みます。

そして、朝食をかつ込んで登校です。午前中は何とか過ごしてきても、昼食後のポカポカした教室では猛烈に睡魔が襲ってきます。

特に数学の授業は地獄です。代数の清輔先生が黄色いチョークで黒板をたたき音が一定のリズムで、睡眠へ睡眠へと、いざなうのです。

幾何の授業では、図形が星のつながりとなって、果ては宇宙の中の私になり、大きな大きな夢を見せてくれるのです。

小さい体なのになぜか座席が一番うしろでした。

しかも、私の前席はクラスでも巨漢のW君。姿勢を正しくしていたら、黒板が見えないのです。みえるものはW君の大きな背中だけです。ということは先生からも私が見えてないということはすぐにわかりました。あれやこれやで、睡魔に連戦連敗だったのが常でした。

期末テストは、数学は代数も幾何も欠点でした。大変なことになりましたが、当時のことです。塾もなければ家庭教師もいない。自分で一からやり直します。昼休み・放課後と質問に行きました。ある時は難しい問題をもらい、1週間考えて出来なかった問題を目の前でスラスラ解かれた時は、涙が出そうだったことを覚えています。

いま68歳。数学欠点だった自分が、38年間を数学の教師として生きてきました。あの時、家に牛がいなかったら、数学の先生にはならなかったかもしれません。美術が好きだったから、もしかしたら…なんて考えたりしますが、人生、好きでないことを真剣にすることでそれが好きになる、つまり食わず嫌いの多いのではないかと思います。人間の能力は自分が思っているほど単純ではないと思います。

卒業時には、体重57kg、身長167cmになって、恩師の葛城先生に「大きくなったのう」と言われたのが今でも耳に残っています。



校舎（昭和38年アルバム）



職員室（昭和38年アルバム）

灰色から バラ色へ

昭和34年卒 高11回生

木村美千子



中学校入学から大学卒業までの10年間大分で暮らし、その内の3年が鶴崎高校での生活でした。

学校生活で、私の口ぐせは「勉強するのイヤだ」でした。親や先生が「勉強せん人は大学にも行けん」とおどかし、試験だレポートだと尻を叩かれるほどに、ますます勉強がイヤになったのでした。

人間には、いやおそらく生物すべてに、勉強したいという本能はあります。動物がみごとに生き、人間がたえず進歩してゆくのは、この本能があるからこそです。人間は、とくに私は横着だから「勉強せよ」と言われるとしたくない。丁度そんな3年間だったように思います。

後年、自分が学校経営に携わるようになった際、あの高校時代、比較的興味があつた美術や音楽を勉強する機会が全くなかったこと、毎月テストに追われ、成績順に貼り出されていたこと等々を思い出

し、当時の教育課程の編成はどのようにしていたのだろう、県教委にどう報告していたのだろうなどと考えたものです。とにかく苦痛でした。

ところが「当時は勉強が楽しかった。英単語一つ覚えるにも…」という東京勢がいることも事実です。勿論優等生の面々ですが。

この灰色の思い出は、60年を経てバラ色に変わったのです。3年間共に学んだクラスメートが、60歳を機に毎年一回集まりだしたのです。有馬温泉、由布院、東京、萩・津和野、淡路島、日田、京都、山口、そして今年は奈良。平城京遷都千三百年祭、往時の面影を漂わせる奈良の歴史、文化に堪能したのです。

クラス会のたびに昔話に興じ、龍馬も、信玄も、エジソンも優等生ではなかった。私達と同じ様に悩んでいた。そしてほんの少しの心がけの違いで偉人になっていった、そういつて笑いこけるのです。

あの時代の心臓の鼓動、一息一息の呼吸、空気の肌ざわり、窓の向こうの空、人々の声、私達はいまそれをなつかしんでいるのです。

古希を迎え、しわも増えましたが、毎年五月の風の中で集うことにより、お互い生きる知恵と糧を汲み取っているのです。やはり鶴崎高校で学んだことは意味ある素晴らしいことだったのです。

◆百年のあゆみ

大分鶴崎高等学校時代

沿革

昭和41年 (1966)

- 1月 本館第二期工事竣工。
- 10月 大分国体に際し、本校はハンドボール会場となる。

昭和42年 (1967)

弓道部・山岳部、全国大会へ出場。

昭和43年 (1968)

プール完成。弓道部・体操部、全国大会へ出場。

昭和44年 (1969)

- 4月 野球部・バスケット部、県大会優勝。バレー部、全国大会出場。

昭和45年 (1970)

体操部、全国大会へ出場。男子バレー部、中九州大会優勝。

- 10月 創立60周年記念式典挙行。

昭和46年 (1971)

- 3月 普通教室棟（鉄筋4階8教室）完成。生物部、読売科学賞受賞。女子バスケット部・放送部個人、全国大会出場。

昭和47年 (1972)

- 3月 普通教室棟（鉄筋4階16教室）完成。女子バスケット部、県大会で優勝。

昭和48年 (1973)

- 1月 渡廊下工事完了（本館・普通教室間）。
- 3月 「憩の池」完成。女子バスケット部、県大会で優勝。全国大会出場。

昭和50年 (1975)

- 3月 弓道場完工。
- 4月 学級増となり、第1学年8学級となる。
- 5月 特別教室棟第一期工事（化学・物理・生物・地学）完成。

昭和51年 (1976)

- 3月 特別教室棟第二期工事（音楽・美術・家庭・書道）完成。

昭和52年 (1977)

弓道部個人、インターハイ出場。

昭和53年 (1978)

- 4月 学級増で、第1学年9学級となる。

昭和54年 (1979)

- 2月 普通教室棟つぎたし工事完工。

昭和55年 (1980)

- 新体育館着工。弓道部個人、全国大会出場。
- 7月 弓道部、九州大会出場。



校舎（昭和41年アルバム）



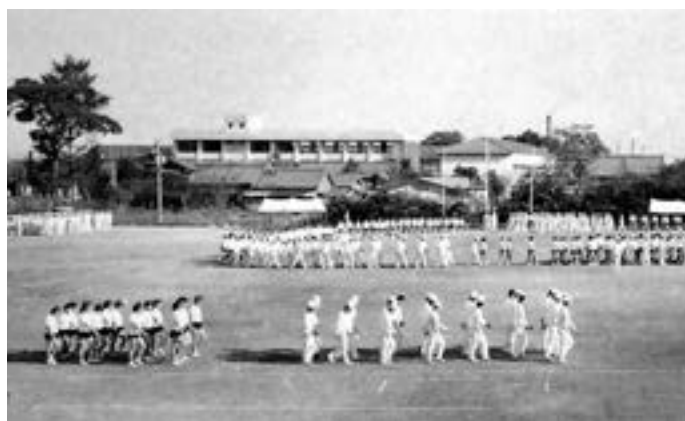
久住山登山キャンプ（昭和44年アルバム）



トロフィー（昭和41年アルバム）

I

昭和39年～昭和63年



体育祭（昭和41年アルバム）



景色（昭和41年アルバム）

◆社会情勢

昭和40年（1965）

6月22日 日韓条約調印

昭和41年（1965）

6月14日 アジア太平洋協議会（ASPAC）設立

昭和43年（1968）

1月 8日 石油輸出国機構（OPEC）発足

6月 5日 R・ケネディ米上院議員暗殺

10月18日 川端康成にノーベル賞

12月10日 3億円強奪事件

昭和44年（1969）

7月20日 米アポロ11号、月面着陸

昭和45年（1970）

3月14日 大阪で万国博覧会

3月31日 新日鉄発足／日航よど号乗っ取り事件

昭和47年（1972）

1月24日 グアムで生き残り日本兵横井庄一発見

2月19日 連合赤軍あさま山荘事件

3月28日 高松塚古墳発掘

5月15日 沖縄返還

昭和49年（1974）

10月 8日 佐藤前首相にノーベル賞

昭和50年（1975）

7月19日 沖縄海洋博開幕

9月30日 天皇初訪米

昭和51年（1976）

4月 5日 天安門事件

7月27日 ロッキード事件で田中前首相逮捕

昭和53年（1978）

8月12日 日中平和友好条約調印

昭和54年（1979）

6月28日 東京で第5回先進国首脳会議開催

（～29日）

昭和55年（1980）

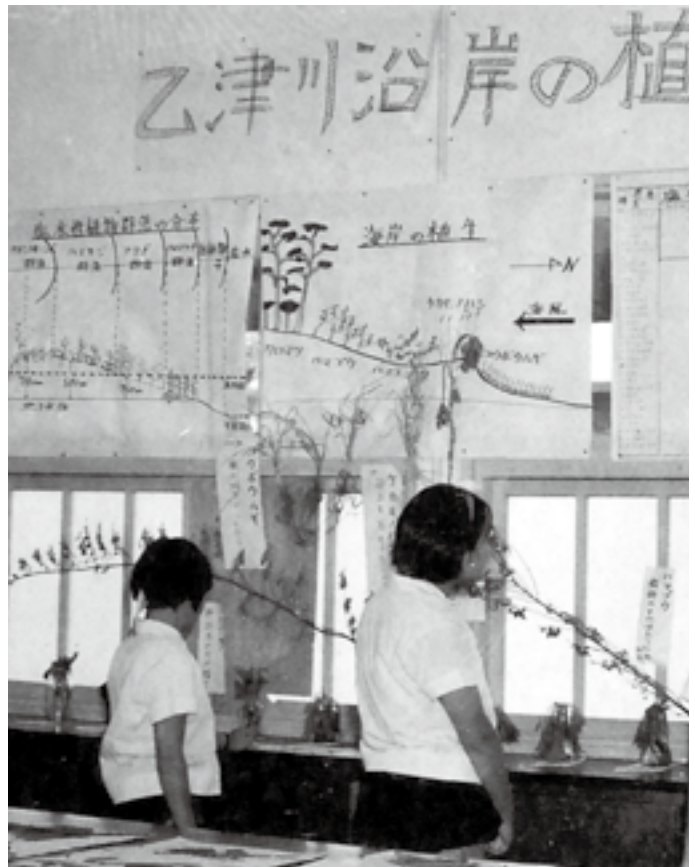
7月19日 第22回五輪モスクワ大会開催、日・米・西独など不参加（～8/3）

沿革

- 11月 弓道部、県新人戦優勝。野球部、県大会で優勝。
- 昭和56年 (1981)**
- 2月 新体育館竣工。
- 3月 創立70周年記念、体育館落成記念式典挙行。
- 9月 文化部室竣工。(8部室)
- 昭和59年 (1984)**
- 3月 第2グラウンド造成工事完成。
- 9月 第2グラウンド落成記念式典挙行。
- 昭和60年 (1985)**
- 4月 大分地区4校(上野・舞鶴・鶴崎・東)合同選抜制度発足。
- 昭和62年 (1987)**
- 9月 旧体育館取り壊し。
バスケット部男子・卓球部女子・体操部女子、全国大会出場。
- 昭和63年 (1988)**
- 3月 管理・普通教室棟竣工。(鉄筋3階建、職員室・普通教室3・合併教室2)
- 4月 学級増のため第1学年10学級となる。
- 12月 柔・剣道場竣工。
サッカー部・体操部女子・放送部、全国大会出場。



竣工したばかりの新体育館で創立70周年の記念式典



文化祭 (昭和41年アルバム)



文化祭 (昭和41年アルバム)



高校県体（昭和44年アルバム）



体育祭（昭和44年アルバム）

◆社会情勢

昭和56年（1981）

- 4月 9日 貨物船日昇丸が米原潜と衝突、沈没
- 10月 6日 サダト・エジプト大統領暗殺
- 10月19日 福井謙一教授にノーベル賞

昭和57年（1982）

- 6月22日 米FBI、IBM社に対する産業スパイ容疑で日立製作所員ら6人逮捕

昭和58年（1983）

- 8月21日 フィリピンのアキノ元上院議員暗殺
- 9月 1日 大韓航空機がサハリン上空でソ連戦闘機に撃墜さる
- 10月12日 ロッキード事件丸紅ルート判決、田中元首相に懲役4年

昭和60年（1985）

- 5月17日 男女雇用機会均等法成立
- 8月12日 日航ジャンボ機、群馬県御巢鷹山に墜落し、4人生存、520人死亡

昭和61年（1986）

- 1月28日 米スペースシャトル「チャレンジャー」爆発
- 11月21日 三原山が大噴火

昭和63年（1988）

- 3月13日 青函トンネル開業
- 7月23日 東京湾で自衛隊潜水艦「なだしお」と釣り船第1富士丸が衝突



体操部（昭和44年アルバム）



茶道部（昭和44年アルバム）



文化祭（昭和44年アルバム）



美術部（昭和44年アルバム）



バレー部（昭和44年アルバム）



授業風景（昭和47年アルバム）



実習風景（昭和47年アルバム）



修学旅行（昭和48年）



登校（昭和47年）



歓迎遠足（青崎海岸）（昭和49年）



クラスマッチ（昭和50年アルバム）



校内風景（昭和50年アルバム）



応援団（昭和50年アルバム）



体育祭（昭和50年アルバム）



創立百周年 記念誌によせて

昭和44年卒 高21回生

姫野 清高



大分県立鶴崎高等学校が創立百周年を迎えられますことを心からお慶び申し上げます。この間、本校の発展にご尽力くださいました歴代校長をはじめ、教職員各位、PTA、同窓会の皆様方のご労苦に対しまして、深く敬意を表します。

また、このたびの本記念誌への寄稿という大変光栄な機会を与えてくださいましたことに厚くお礼を申し上げます。

さて、当然のことながら私も本校「つるたか」の出身です。昭和44年3月卒業の第21回生です。振り返りますと高校3年間は、これまでの人生の中でも特別なものがあります。高校生活は勉強だけではありません。なかでも1年生の時に「克己・友愛・創造」の校訓のもとで、生徒会の書記長を務めさせていただきました。その後、会長に立候補し、落選しましたが、多くの貴重な経験をさせていただきました。卒業後の大学進学では、先輩OBからアパートのお世話をはじめ、

温かいご指導、ご協力をいただきました。お陰さまで今日に至るまで「つるたか」の厚い友情に支えられており、本当に心から感謝しているところです。

私事で恐縮ですが、昨年5月に大分商工会議所の第10代会頭に就任いたしました。百年に一度と言われる困難な経済状況の中で、思いもよらぬ重責を担う事になりました。その責任の重さを痛感し、身の引き締まる思いをいたしております。

今、中小企業はどこも「仕事がない」「モノが売れない」という共通の悩みを抱えています。商工会議所会員の99%以上が中小企業であり、地元中小企業が元気にならない限り、大分の経済に活力は生まれないと考え、全力で取組んでいるところです。私といたしましては、とにかく会員の声に真摯に耳を傾け、一つひとつスピード感を持って解決に向け取り組んでまいります。

こうした厳しい経済情勢の中、雇用情勢の悪化による高校生の求人数減少や就職率低下など、暗いニュースが続いています。この課題に対しましても、解決に向けた取組を強化してまいりますので、本校OBの皆様方におかれましては、格段のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、百周年を契機として、本校のますますのご繁栄あらんことを祈念し、あわせて関係者の皆様の更なるご健勝とご多幸をお祈りいたしまして、私の寄稿とさせていただきます。



文化祭（昭和50年アルバム）



校内風景（昭和50年アルバム）



授業風景（昭和50年アルバム）





入学式（昭和51年）



祖母山登山（昭和54年）



修学旅行（昭和52年）



高校県体（昭和53年）



バスケット部（昭和54年アルバム）



テスト風景（昭和54年アルバム）



校庭（昭和54年アルバム）



校舎（昭和54年アルバム）



校内（昭和54年）



体操部（昭和54年）



水泳（昭和54年）



授業（昭和54年）



創立70周年記念式典（昭和56年）



文化祭（昭和56年）



マラソン大会（昭和57年アルバム）



体育祭（昭和56年）



授業風景（昭和57年アルバム）



校舎（昭和57年アルバム）



修学旅行（昭和58年）



県体（昭和59年）



遠足（昭和59年）



県体壮行会（昭和59年）



生徒総会（昭和59年）



第2グラウンド落成記念式典（昭和59年）



鶴崎近景（昭和60年アルバム）



実習風景（昭和60年アルバム）



授業風景（昭和60年アルバム）



校内風景（昭和60年アルバム）

高校時代から 私を支える言葉

— 創立百周年に寄せて —

昭和58年卒 高35回生

志賀江梨子



卒業して30年近くが過ぎ、母校鶴崎高校で過ごした日々が懐かしく思い出されます。当時は規律ある生活の中にも自由闊達な空気がみなぎり、生徒一人一人の目がキラキラと輝いていました。青春を謳歌した時代でした。

憧れの鶴崎高校に入学したものの、厳しい勉強と電車通学で疲れ果てる毎日でした。そんな学校生活の中で、私が少しでも注目を浴びた出来事がありました。創立70周年のために結成された合唱団でソロをとることになったのです。歌うことは大好きで、中学時代合唱部に所属していたけれど、顧問の先生が私を選んだ理由がわかりません。全く自信をもてないそんな時、先生が一言。

「君の声にはドラマがある」

自慢できることのなかった私に大きな自信を与えた言葉です。3年間の高校生活は決して輝かしいと

は言えませんが、周囲が認めてくれることで喜びが芽生え、自信が積み重ねられた日々でした。

現在私は、テレビの仕事に関わっています。リポーターの仕事をしたり、イベントの司会を務めたりします。あの時の言葉は、ずっと心の中心にあり、私を支えてくれています。多くの方に出会い、お話を聞き、視聴者の皆さんに今の私の声が伝えます。私自身、人生のドラマを重ねた声をもつ人間に成長しているのかもしれません。

伝統や校風に誇りを持ちながら、伸び伸びと過ごした高校時代。押しつけられることも否定されることもなかったおかげで、私は今まだゆっくりと夢を追い続けることができるのだと思います。創立百周年を迎えた、愛する母校のますますの発展と、生徒・卒業生の皆さんの更なるご活躍をお祈りいたします。



高校県体（昭和63年アルバム）



秋の遠足
（昭和63年アルバムより）



クラスマッチ（昭和63年）



修学旅行（昭和63年）



マラソン大会（昭和63年）



生徒総会（昭和63年）



教育合宿（昭和63年アルバム）



体育祭（昭和63年アルバム）



文化祭（昭和63年アルバム）

◆百年のあゆみ

大分鶴崎高等学校時代

沿革

平成元年（1989）

- 2月 第一グラウンド整備工事完成。（全面整地、テニスコート2面、防球ネット等）
- 3月 職員宿舎、公立学校共済組合より購入。（普通財産として管理）
- 9月 屋外便所竣工。（ブロック造平屋建）
- 11月 第二グラウンド、雨天投球練習場竣工。（木造）
放送部、全国大会出場。

平成2年（1990）

- 2月 第二グラウンド 倉庫竣工。（木造平屋建）
- 4月 新合選制度、第7通学区（鶴崎・東）学級減のため第1学年9学級となる。
サッカー部・水泳部（林 享100m平泳ぎ2位）、全国大会出場。
- 10月 創立80周年記念式典挙行。

平成3年（1991）

- 1月 第二グラウンド部室増築。
- 3月 セミナーハウス竣工。
- 8月 特別教室棟外壁改良工事完了。
- 12月 焼却炉新設。
水泳部（林 享）、パシフィック世界大会出場。

平成4年（1992）

- 3月 校地北側囲い新設。
- 4月 学級減のため第1学年8学級となる。
水泳部（林 享100m・200m平泳ぎ優勝100m平泳ぎの記録は、現在も大会記録である）、全国大会出場。

平成5年（1993）

- 1月 第二グラウンド 部室倉庫。
- 8月 管理棟 大規模工事完了。
水泳部、全国大会出場。

平成6年（1994）

水泳部、全国大会出場。

平成7年（1995）

- 3月 校地西側囲い新設。
- 4月 単独選抜制度 第3通学区発足。
学級増のため第1学年9学級となる。
水泳部・ハンドボール部女子、全国大会出場。



校舎



入学式（平成3年）



新入生歓迎遠足（目的地：松原緑地公園）

II

平成元年～平成12年



創立80周年記念式典（平成2年）

◆ 社会情勢

平成元年（1989）

- 1月 7日 昭和天皇が逝去、新天皇に皇太子明仁親王が即位
- 1月 8日 新元号「平成」が施行
- 2月24日 大喪の礼
- 4月 1日 消費税がスタート

平成2年（1990）

- 8月 2日 イラク軍がクウェートに侵攻
- 10月 3日 東西ドイツが統一、ドイツ連邦共和国が誕生

平成3年（1991）

- 1月17日 米軍など多国籍軍がイラク、クウェートの空襲開始、湾岸戦争地上戦に突入
- 1月22日 橋本蔵相が米側と多国籍軍への90億ドルの追加支援で合意
- 2月28日 ブッシュ米大統領が勝利宣言、戦闘停止を命令
- 6月 3日 雲仙・普賢岳で大規模火砕流が発生、島原市で36人死亡、4人行方不明

平成6年（1994）

- 1月17日 米ロサンゼルスを中心にM6.6の大地震、死者は51人

平成7年（1995）

- 1月15日 ラグビーの第32回日本選手権で神戸製鋼が7連覇達成
- 1月17日 阪神大震災、年末までに死者6000人を超える
- 1月19日 ロシアがチェチェン共和国の首都グロズヌイの大統領府を占拠
- 3月 9日 日米韓3国が朝鮮半島エネルギー開発機構（KEDO）設立協定に調印（北朝鮮は12月に調印）
- 3月20日 都心の営団地下鉄で猛毒ガス、サリンがまかれ、死者11人、被害者多数
- 5月15日 警視庁が地下鉄サリン事件でオウム真理教教祖麻原彰晃を逮捕
- 6月 2日 米大リーグで野茂英雄投手が初勝利（シーズン13勝6敗）

平成8年（1996）

- 6月 1日 岡山県の小学校と幼稚園でO157による食中毒が発生

沿革

平成8年 (1996)

剣道部・水泳部・ハンドボール部女子、
全国大会出場。

平成9年 (1997)

4月 学級減のため第1学年8学級となる。
剣道部・水泳部・バスケットボール部
女子・ハンドボール部女子、全国大会
出場。

平成10年 (1998)

4月 学級増のため第1学年9学級となる。
9月 焼却炉使用禁止。(ダイオキシン対策)
剣道部・水泳部・バスケットボール部
女子・ハンドボール部女子 (3位)、全
国大会出場。

平成11年 (1999)

4月 第二グラウンド体育倉庫改築。
剣道部 (3位)・サッカー部・水泳部・
ハンドボール部女子 (準優勝)、全国
大会出場。

平成12年 (2000)

3月 文化的施設整備事業の一環としてモ
ニュメント建立。
4月 第一グラウンド屋外便所・倉庫改築。
剣道部・水泳部・バスケットボール部
女子・ハンドボール部女子 (3位)、全
国大会出場。



歓迎遠足 (平成3年アルバム)



授業 (平成3年アルバム)



教育合宿 (平成3年アルバム)



高校県体（平成3年アルバム）



マラソン大会（平成3年アルバム）



校庭（平成3年アルバム）

◆社会情勢

平成10年（1998）

- 2月 7日 長野冬季五輪開幕。日本は金5個を含む史上最多のメダル獲得
- 6月10日 日本が初出場のサッカー W杯フランス大会開幕

平成11年（1999）

- 1月 1日 EMU 発足、単一通貨ユーロ誕生

平成12年（2000）

- 3月31日 北海道の有珠山が噴火
- 7月19日 二千円札発行
- 8月10日 伊豆諸島の三宅島で火山噴火
- 9月15日 第27回五輪シドニー大会開幕、柔道の田村、女子マラソンの高橋らが金
- 10月 6日 鳥取西部地震
- 10月11日 白川英樹氏がノーベル化学賞受賞
- 12月 1日 BS デジタル放送を開始



第69回全国高校サッカー選手権出場（平成3年アルバム）



数々の栄光（平成3年アルバム）



登校（平成6年アルバム）



校内（平成8年アルバム）



授業風景（平成6年アルバム）



昼食風景（平成6年アルバム）

鶴崎高校で学び、 経験したこと

平成5年卒 高45回生

三重野 勝己



鶴崎高校の在校生や卒業生、教職員や保護者の皆さま、この度は創立百周年を迎えられまして、誠にありがとうございます。今回、記念新聞への寄稿にあたり、久しぶりに自分自身の高校時代を振り返ってみました。バレーボール部最後の年の高校県体では、足がつり途中交代したまま敗退。バレンタインデーには、友人が抱えきれない程のチョコをもらうち、私は手ぶらで帰宅。体育祭では、一生懸命練習した鶴高体操で、当日に相手が休んでしまいグラウンドの真ん中で体育座りと、何だかパツとしない思い出ばかりが真っ先に浮かんできました。

しかし、じっくり考えていくと、文化祭の学級展示で教室全体を使った美術館をクラスメイト全員で汗だくになりながら作成したり、セミナーハウスの夏合宿で、先生の目を盗んで夜遅くまで談笑し合ったりと、学生ならではの有意義でかけがえの無い経

験を積むことができたのも高校時代でした。

私は、現在大分放送でアナウンサーという職種に就いていますが、知識や人脈といった高校時代に培った経験などが仕事の役に立っていると感じることが多々あります。ラジオの番組で長時間フリートークをする場合、その人となり（パーソナリティ）が知らず知らず出ていくものです。自らが感じて、学んだことをリスナーのみなさんの共感を得られるように話していく訳ですが、その中身は等身大の自分以上のものは出せません。

在校生のみなさんや、これから鶴崎高校で学びたいと考えている人たちには、是非、全力で高校生活を過ごして頂きたいと思います。もっと楽しめばよかった、もっと勉強すればよかった……時間が何にも代え難いものであると分かっている、動けずに後悔することもあります。そうならない様に、猛進して下さい。また、鶴崎高校には百周年を機に、これからも生徒たちのやる気に応えられる学校であり続けて欲しいと思います。



テスト風景（平成6年アルバム）



実習風景（平成6年アルバム）



翔鶴祭（平成6年アルバム）





壮行会（平成6年）



修学旅行（平成6年アルバム）



秋の遠足（平成6年アルバム）



高校県体（平成6年アルバム）



校舎（平成8年アルバム）

スクールライフ
（平成8年アルバム）



授業（平成8年アルバム）



高校県体（平成8年アルバム）



クラスマッチ（平成8年アルバム）



秋の遠足（平成8年アルバム）



テスト風景（平成8年アルバム）



教育合宿（平成8年アルバム）



入学式（平成8年アルバム）



親睦遠足（平成8年アルバム）



授業風景（平成8年アルバム）



修学旅行（平成8年アルバム）



スクールライフ（平成8年アルバム）



進路（平成8年アルバム）



翔鶴祭（平成8年アルバム）



体育大会（平成8年アルバム）



翔鶴祭（平成8年アルバム）



壮行会
（平成8年アルバム）



教育合宿（平成8年アルバム）



授業風景（平成11年アルバム）



実習風景（平成11年アルバム）



校内風景（平成11年アルバム）



スクールライフ (平成11年アルバム)



マラソン大会 (平成11年アルバム)



(平成8年10月)



鶴崎高校で よかった

平成9年卒 高49回生

杉崎 美香



創立百周年おめでとうございます。変化の多いこの時代において、我が母校が百年もの間存続していることを、卒業生として嬉しく、そして誇らしく思います。

鶴崎高校を思い出すとき最初に脳裏に浮かぶのは、大きな河の両側に続いた土手です。私は土手が好きでした。鶴崎中学校に在籍していたときからそう。一人でぼんやりするときも、親友と恋の話をするときも、いつだって土手の空気を吸っていました。寒い冬に長距離を走った、所謂“土手ラン”はきつかったけれど…そういったもの全部ひっくるめて、心のふるさとのような場所。とても優しく、大きく迎えてくれる場所です。

その土手を毎日自転車で登下校していた高校時代。振り返ってみると、勉強だけでなく、スポーツや文化的な取り組みにも力を入れた学校だったことに感謝しています。

クラスが一つになって戦ったクラスマッチ。全校生徒で大きな円を作って踊ったフォークダンス。浴衣の着付けを覚えて、鶴崎踊りを踊るという行事も素敵だったなと思います。教室をお化け屋敷にした文化祭。

お客さんを脅かすためのぷにゅぷにゅのスライムを、自分たちで作ったときのワクワク感を今でも覚えています。苦しくも楽しく、いろんなことを学ばせてくれたのがバレーボール部でした。頭を悩ませる問題がいくつも発生して、当時キャプテンだった私はもう辞めてしまいたいと何度も思ったけれど、途中で投げ出さなくて本当によかった。部活の後に飲む水は最高に美味しかったですね。

学生時代は、少なからず皆あることかもしれないけれど、友だちはいながら、孤独感を覚えることも多かったです。それまで親友だった子と、進学コースの違いで少しずつ距離ができてしまったこともあって。でも、あの頃の自分に言ってあげたい。

「大丈夫だよ。ちゃんと生涯の友だちができるから。」って。一度や二度距離ができたとしても、本当に大切な人とはまた繋がっていく。大人になって分かったことです。もう何の不安もなく、私は彼女たちといられます。今でも鶴崎高校での出来事を笑いながら話せることがとても幸せです。

これからも、厳しさと優しさ、そしてユーモア溢れる大分鶴崎高校であっていただきたいと心から願っています。





進路（平成11年アルバム）



図書館（平成11年アルバム）



修学旅行（平成11年アルバム）

今の自分を 支えてくれるもの

平成9年卒 高49回生

外池 咲子



創立百周年を迎え、心よりお慶び申し上げます。

高校を卒業して十数年。あのころは勉強はほどほどに、部活中心の生活でした。練習は毎日。練習後は先輩方の面タオルや剣道着を洗う仕事等待着り、平日の帰宅は午後9時前。延々と続く坂を自転車で上り、帰り着いたころはヘトヘトでした。

それでも頑張れたのは仲間がいたからです。きつい練習もだるい帰り道もみんな一緒。一人だったら続いていないかもしれません。

その仲間との絆を強く感じたのが、3年のときの高校県体です。杵築との準々決勝。これまでベスト8の壁を越えられなかった私たちにとって大きなヤマ場でした。先鋒戦を落とし、迎えた次鋒戦。高校から上段の構えに切り替えた同級生が今まで見たことのないもろ手出頭面を決め、勝ったのです。そして中堅の私につないでくれました。

気持ちが乗った3年間の集大成ともいえる面。そ

れを見た瞬間、「何が何でも勝たねば」という気持ちが強まりました。苦手な相手に攻め続けることができ、結果、1本勝ちしたのです。その後、副将が負け、同点になりましたが、大将の同級生がきっちり締め、接戦をものにしました。3年生の執念。見えない糸で気持ちがつながっているのを感じました。

この経験が今に生きています。新聞社でスポーツ取材を9年間し、3年生の勝負強さを垣間見る機会が幾度もありました。夏の高校野球甲子園予選で9回2死からサヨナラ打を放ったり、バレーボールでマッチポイントを取られながら逆転したり。高校時代の経験がなかったら、感じ取ることはできなかったでしょう。

今の世の中は「個」が尊重され、仲間意識が薄れてきています。だからこそ感受性豊かな高校時代に友人をたくさんつくり、仲間の大切さを学ぶのが大事だと思います。年を取ったとき、ひとこと言葉を発すれば、当時に戻れる仲間がいる。これほど幸せなことはないと思うのです。

大人になった今もつながりは絶えません。部活動で育んだ経験と友情。それは私の原動力であり、財産です。





駅（平成11年アルバム）



県体（平成11年アルバム）



歓迎遠足（平成11年アルバム）



校舎（平成11年アルバム）



校内（平成11年アルバム）



校舎（平成11年アルバム）



授業（平成11年アルバム）



航空写真（平成11年アルバム）



秋の遠足（平成11年アルバム）



生徒総会（平成11年アルバム）



壮行会（平成11年アルバム）



盆踊り（平成11年アルバム）



翔鶴祭（平成11年アルバム）



テスト風景（平成11年アルバム）



体育大会（平成11年アルバム）



授業風景（平成11年アルバム）

◆百年のあゆみ

大分鶴崎高等学校時代

沿 革

平成13年 (2001)

- 2月 普通教室棟取り壊し。
- 11月 プールおよびシャワー室取り壊し。

平成14年 (2002)

- 1月 第二グラウンド倉庫寄付受納。(野球部保護者会)
- 2月 普通教室棟竣工。(鉄筋4階建27教室)
- 2月 普通教室棟落成記念式典挙行。
- 3月 校内LAN設置工事完了。
- 3月 仮設校舎返納。(解体撤去)
- 3月 第二グラウンド照明設備増設。(野球部保護者会より寄付受納)
- 3月 プール竣工。(7コース 25m)
- 3月 第一グラウンドフェンス改修。
- 4月 学級減のため第一学年8学級となる。

平成16年 (2004)

- 2月 多目的競技場竣工。(鉄筋一部2階建)
- 2月 第二グラウンド公共下水接続工事完了。
- 3月 第二グラウンド硬式テニスコート改修。



創立90周年演奏 (平成14年アルバム)



入学式 (平成14年アルバム)



歓迎遠足 (平成14年アルバム)

III

平成13年～平成22年



スクールライブ（平成14年アルバム）



教育合宿（平成14年アルバム）

◆社会情勢

平成13年（2001）

- 3月24日 瀬戸内海の安芸灘沖で地震（芸予地震）
- 3月31日 ユニバーサル・スタジオ・ジャパンが開業
- 4月 1日 特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）が施行された
- 9月10日 農水省が千葉県で飼育されていた乳用牛1頭が日本初の「狂牛病」に感染の疑いと発表
- 9月11日 米同時テロ発生、旅客機2機が世界貿易センタービルに突入、3機目がワシントンの国防総省に突入、死亡者・不明者は計6574人
- 9月30日 ベルリンマラソンで、高橋尚子選手が2時間19分46秒の世界最高記録をマークして優勝
- 11月20日 米大リーグ、マリナーズのイチロー外野手が日本人選手として初めてリーグ最優秀選手（MVP）に選ばれた
- 12月 1日 皇太子妃雅子さまが敬宮愛子様をご出産

平成14年（2002）

- 5月31日 日韓共同開催のサッカーのワールドカップ開催
- 10月 8日 2002年ノーベル物理学賞に小柴昌俊 東大名誉教授
- 10月 9日 2002年ノーベル化学賞に島津製作所の田中耕一氏
- 12月 1日 東北新幹線、盛岡―八戸開業

平成15年（2003）

- 2月 1日 日米スペースシャトル「コロンビア」が空中分解、乗員7人が死亡
- 2月 新型肺炎（SARS）が世界的流行、死者700人以上
- 7月26日 イラク復興支援特措法が成立、自衛隊派遣へ
- 9月15日 阪神タイガースが18年ぶりリーグ優勝
- 11月29日 邦人外交官2人がイラクで殺害

平成16年（2004）

- 1月12日 山口県内の採卵養鶏場で高病原性鳥インフルエンザ検出
- 1月15日 第130回芥川賞は綿矢りさ（19）、金原ひとみ（20）の2人が受賞、史上最年少記録を大幅更新

沿革

平成 17 年 (2005)

- 2月 第一・第二グラウンド防風・防球ネット復旧。(台風被害のため)
プール付属棟屋根災害復旧。(台風被害のため)
- 3月 第一・第二グラウンドテニスコート改修。(台風被害のため)
- 9月 管理棟耐震補強。

平成 19 年 (2007)

- 3月 国宗テニスコート・部室新設工事完了。

平成 21 年 (2009)

- 3月 第二グラウンド防球ネット設置工事完了。
- 11月 第二グラウンド バックネット 撤去。
- 12月 第二グラウンド バックネット設置工事完了。

平成 22 年 (2010)

- 1月 体育部室(2階建)及び正門横自転車置場 撤去。
- 3月 ICT活用授業による普通教室・特別教室 パソコン等整備。
- 3月 体育部室(平屋・2階)建築及び自転車置場設置工事完了。
- 7月 セミナーハウスに記念事業でエアコンを設置。
- 10月1日 記念碑除幕式。
- 10月2日 創立百周年記念式典挙行。



校舎工事 (平成 14 年アルバム)



校舎工事 (平成 14 年アルバム)



校内 (平成 14 年アルバム)



実習風景（平成14年アルバム）



（平成14年アルバム）



身体測定（平成14年アルバム）

◆社会情勢

- 3月13日 九州新幹線が鹿児島中央－新八代間で開業、計画から30年余りを経ての部分開業
- 平成17年（2005）
 - 4月25日 尼崎のJR西日本脱線事故、107人が死亡
 - 8月30日 原油価格が高騰、一時1バレル70ドル突破
 - 8月 ハリケーン「カトリーナ」が米国南部に大被害
 - 10月14日 郵政民営化法が再提出され成立
- 平成18年（2006）
 - 1月23日 ライブドア事件で堀江貴文社長ら逮捕
 - 2月23日 トリノ五輪、フィギュア荒川静香選手が「金」
 - 3月20日 野球、第一回WBCで、王ジャパンが初代王者
 - 5月27日 インドネシアのジャワ島でM6.8の地震、死者約7000人
 - 5月18日 秋田の小1男児が殺害され発見、子供が犠牲の犯罪者相次ぐ
 - 8月24日 冥王星、太陽系惑星から除外
 - 9月 6日 秋篠宮妃、紀子様が男子をご出産
 - 10月26日 北海道日本ハムファイターズ、44年ぶり日本一
- 平成19年（2007）
 - 1月 不二家、期限切れ牛乳使用
 - 3月 関西テレビ制作「発掘！あるある大事典」ねつ造
 - 4月 記録的な暖冬。冬の平均気温が観測史上最高を記録
 - 5月 5日 万博記念公園内のジェットコースター事故で女性死亡
 - 7月16日 新潟県中越沖地震。M6.8死者11人、重軽傷者1088人
 - 10月 1日 日本郵政公社が民営化
 - 11月 1日 プロ野球、中日が53年ぶり日本一
 - 11月15日 ガソリン150円突破、生活を直撃
- 平成20年（2008）
 - 1月11日 薬害C型肝炎感染被害者を救済するための特別措置法が成立
 - 2月 7日 時津風部屋力士傷害致死事件。同部屋の力士3人が傷害致死容疑で逮捕される
 - 6月 8日 秋葉原無差別殺傷事件。17人が死傷
 - 7月 3日 イージス護衛艦「あたご」と、マグロはえ縄漁船「清徳丸」が衝突。2名死亡2名行方不明
 - 7月 硫化水素自殺の多発



高校県体（平成14年アルバム）



高校県体（平成14年アルバム）



修学旅行（平成14年アルバム）



体育祭（平成14年アルバム）



翔鶴祭（平成14年アルバム）



スクールライフ（平成14年アルバム）



授業風景（平成14年アルバム）



マラソン大会（平成14年アルバム）



スクールライフ（平成14年アルバム）



入学式（平成16年アルバム）



合格発表（平成16年アルバム）



歓迎遠足（平成16年アルバム）



授業風景（平成16年アルバム）



テスト風景（平成16年アルバム）



教育合宿（平成16年アルバム）



台湾国立台東高級商業職業学校修学旅行団（平成16年アルバム）



スクールライフ（平成16年アルバム）



マラソン大会（平成16年アルバム）



校舎（平成16年アルバム）



高校県体（平成16年アルバム）



修学旅行（平成16年アルバム）



高校野球（平成16年アルバム）



授業（平成16年アルバム）



受験生の掟（平成16年アルバム）



高校県体（平成16年アルバム）



スクールライフ（平成16年アルバム）



体育祭（平成16年アルバム）



校舎（平成16年アルバム）



校舎（平成16年アルバム）



入学式風景（平成19年アルバム）



生徒総会（平成19年アルバム）



歓迎遠足（平成19年アルバム）



教育合宿（平成19年アルバム）



校舎（平成19年アルバム）



修学旅行
（平成19年アルバム）



授業風景（平成19年アルバム）



セミナーハウス（平成19年アルバム）



多目的競技場（平成19年アルバム）

鶴崎高校の思い出 そして期待

平成20年卒 高60回生

小野 真佑

鶴崎高校創立百周年、本当におめでとうございます。私は平成20年3月に卒業し、この4月から社会人となりました。私にとって鶴崎高校での3年間は、あっという間で、日々楽しいことばかりだったように思います。その中でさまざまなことを学び、今後一生大切につきあっていきたい仲間と出会いました。

私の一番の思い出は、やはり3年間所属していた吹奏楽部での日々です。毎日仲間と一緒に支え合って、上手くなるように努力を重ねました。上手くできなかったとき、楽器が嫌になったときも、仲間がいてくれたから3年間続けることができたと思っています。皆で合奏し上手くできたとき、満足いく演奏ができたときの感動、喜びは今も忘れられません。吹奏楽部の仲間は今でも私の大切な人たちです。

他にも文化祭での思い出や、受験での思い出、修学旅行、友人たちと過ごした楽しい日々など、本当に高校生活は楽しくかけがえのないものです。

今、私は保育士として働いています。この仕事に就き充実した日々を送ることができているのも、高校で受験を支援してくださった先生方のおかげです。毎日、面接練習や作文指導などをしていただき、本当に感謝しています。これからも、いつも感謝の気持ちを持って働き、保育士として子どもに優しく、たくさんのことを教えていきたいと思います。

創立百周年を迎え、これからも鶴崎高校の歴史は続いていくと思いますが、卒業生は、鶴高での大切な仲間をいつまでも忘れず、楽しかった日々を思いだして充実した毎日を過ごしていただきたいと願います。また、学校には、入学した生徒が「鶴高に来てよかった」と思えるようにこれからも、学業、部活、行事などでの支援をお願いします。

鶴崎高校での思い出は、私の人生の大切な一部です。これからも鶴高で学んだこと、得たものを忘れずに過ごしていきたいと思います。



壮行会（平成19年アルバム）



高校県体（平成19年アルバム）



スクールライフ
（平成19年アルバム）





クラスマッチ
(平成19年アルバム)



授業風景
(平成19年アルバム)



校門より校舎を眺む ((平成19年アルバム)



体育祭（平成19年アルバム）



翔鶴祭（平成19年アルバム）



入学風景（平成22年アルバム）



教育合宿（平成22年アルバム）



平成22年



高校県体（平成22年アルバム）



修学旅行（平成22年アルバム）



テスト風景（平成22年アルバム）



スクールライフ（平成22年アルバム）



授業風景（平成22年アルバム）



航空写真（平成22年アルバム）



授業風景（平成22年アルバム）



翔鶴祭（平成22年アルバム）



体育祭（平成22年アルバム）



スクールライフ（平成22年アルバム）



授業風景（平成22年アルバム）



迎春祭（平成22年アルバム）



校舎（平成22年アルバム）



現在の鶴高

OITA TSURUSAKI Senior High School

100th Anniversary

年間行事

- | | |
|----|--------------------------------------|
| 4月 | 入学式
実力考査
親睦遠足
教育合宿（1年） |
| 5月 | 中間考査
PTA総会 |
| 6月 | 実力考査
高校県体 |
| 7月 | 期末考査
学習合宿
大学出前講義（2年）
クラスマッチ |
| 8月 | 学習合宿
夏休み補習 |



入学式



親睦遠足



教育合宿



クラスマッチ



学習合宿



高校県体

9月	実力考査 翔鶴祭
10月	中間考査
11月	実力考査 修学旅行
12月	期末考査 クラスマッチ
1月	実力考査 迎春祭
2月	学年末考査
3月	卒業式 クラスマッチ



体育祭



翔鶴祭





クラスマッチ



修学旅行



迎春祭



部活動紹介



体 操 部

体操部は、昭和30年に着任された碇先生の指導の下同好会として発足し、昭和32年には部に昇格した。県大会で上位入賞するようになり、昭和34年の県大会では初優勝を飾っている。当時は器具もなく、部員が手作りで作成したようです。創部から今年で55年になります。近年では、設備の充実した強化校に選手が流れ、鶴高には未経験者が入部し入賞目指して頑張っている。今年国体に出場した新体操部員も生まれ新たな歴史を刻んでいる。



水 泳 部

夏は学校の屋外プールで、冬は室内の市営プール等で週6日練習をしています。泳ぐだけの練習ではなく、筋力トレーニングやメンタルトレーニングも行っています。平成21年度に高校県体で女子総合初優勝を飾り、21年度新人大会、22年度高校県体でも優勝しました。男女ともに、インターハイ、国体、九州大会等に多数の選手が出場し、活躍しています。また、県から強化指定校に委嘱されています。全国制覇を目指して日々努力しています。



バスケットボール（男子）部

毎週月・水曜日は多目的体育館、火・金曜日は体育館で女子バスケット部と合同で練習しています。土日は大会や練習試合に参加したり、練習でゲーム形式を行い、実戦感覚を養っています。近年は1回戦突破ができたりできなかったりと一進一退の戦績が続いていますが、春の県体でのベスト8（ウィンターカップ県予選出場権）を目指して練習に励んでいます。伝統ある部活ですので、先輩方の築いた歴史に新たなページをと考えています。



バスケットボール（女子）部

昭和37年に創部されて以来、約半世紀もの間鶴高と歩みを共にしてきた。その間インターハイ出場9回、ウィンターカップ出場7回、全九州大会優勝を含む出場多数を誇り、県内屈指の強豪校として名を馳せた。現在は「明るさ・素直さ・直向きさ」を胸にバスケットボールを通じ、将来求められる人間像を形成したい。また、百年の歴史と伝統、さらには創部以来培われてきたバスケットボール部の精神に恥じない活動をしていきたいと考えている。



バレーボール（女子）部

現在、女子バレーボール部は、1年生2名、2年生6名の計8名で活動しています。人数が少ない分、チームとしての完成度の高さを念頭に、平日は17時～19時まで、休日は8時～12時まで密度の濃い練習に励んでいます。昨年来、大分県各地を練習試合で回り、徐々に実力をつけてきました。戦績は1回戦突破と敗退を繰り返す状況ですが、「大会で2回勝つ」をチーム目標とし、更なる躍進を目指しています。今後にご期待下さい！



ハンドボール（女子）部

2年生10名、1年生6名、計16名で活動をしています。現在、高校県体16年連続優勝中で、インターハイへも16回連続出場中です。沖縄で開催されたインターハイでは、3回戦で惜しくも敗戦しましたが、ベスト16という成績を残すことができました。ハンドボールを通して、礼儀等を中心に指導し、社会に出た時に信頼される人材を育てる様に励んでいます。常に全国で活躍できる部活動を目指し、毎日練習を頑張っています。



サッカー部

創部1974年、インターハイ出場3回（今年度出場、ベスト8進出2回）、全国高校サッカー選手権大会出場5回。部員数約50名。鶴蹴誇闘を部訓に第一グラウンドにて毎日練習に励んでいる。大分で勝つチームではなく、全国で勝てるチームを目指している。昨年度はすべての大会で2位という残念な結果であった。最後の選手権予選では見事に優勝をはたし、全国大会への出場を決め、百周年記念に花を添えることができました。



卓球（男子）部

現在、男子卓球部は2年生6人、1年生11人で活動しています。部員のほとんどが高校から卓球を始めて、団体では「1勝する」、個人では「全員が1勝する」を目標に、多目的競技場の2階で日々、集中して練習をしています。現在は、次の試合に向けてさらに練習に力が入っています。明るく楽しい部活ですが、キャプテンを中心にしっかりまとまる素晴らしいチームです。



卓球（女子）部

現在、部員は3年生1名、2年生2名です。普段は多目的競技場の2階で毎日放課後19時までと土曜の午前中に練習をしています。県大会は団体戦が1回戦、個人は1名が支部予選通過、県大会2回戦までという戦績でした。秋の新人戦では2年生2名とも支部予選を突破し、県体出場を決めました。日々の練習に一生懸命取り組んだ成果が県体出場につながったと考えています。今後もさらなる競技力アップに頑張っていきます。



テニス（男子）部

男子硬式テニス部は、現在1～3年生の部員数57名で活動しています。全校男子生徒の10分の1近くがテニス部員ということになります。なかなか県総体などでは上位に進出することはできませんが、1ポイント・1ゲームでも多くとれるように、毎日練習に励んでいます。お互いに切磋琢磨していく中で、学年やコース、クラスの垣根を越えて、チーム内に「絆」が生まれています。今後もチーム一丸となってがんばっていきます！



テニス（女子）部

女子硬式テニス部は現在2年生1名、1年生5名の全6名で活動しています。国宗のテニスコート1面を借りて、土日を中心に日々テニス技術の研鑽に励んでいます。全員が硬式テニスは初心者ですが、様々な高校と練習試合ができるほどに成長しました。夏のシングルス大会では、3名が県大会まで勝ち残る成果を上げました。冬の間に十分に走り込んで、来年の県体では、初戦を突破した今年以上の成績を上げることが目標です。



ソフトテニス（女子）部

ソフトテニス部は2001年に九州新人大会で団体戦3位となり、全国選抜大会に出場したり、ハイスクールジャパンカップでは全国3位になるペアが出たりと華々しい活躍をしています。現在はとうていそんなすごい成績は出せていませんが、先輩たちが築いてきた『挑戦』という目標のもと、毎日練習に励んでいます。今も昔も変わらないグラウンドの端のテニスコートで、新たな100年間に向けて、努力していきます。



弓道部

現在は、男子26名、女子12名、総勢38名で活動しています。部の歴史も長く多くの先輩方の後を引き継いで今も活動しています。普通科高校に求められる学力を身につける努力をしながら、武道を通して鍛えられるものを求めています。特に相手の無い武道である弓道は、高校生達に自分自身を深めさせる教育的効果が非常に大きいです。今の日本人に薄くなった深い洞察とそこから生まれた信念を形に表して行く行動力を培っています。



柔道部

平日は、補強運動、受け身、打ち込み、乱取り、筋力トレーニングを基本として2～2.5時間の校内練習に励んでいます。また、土日や祝日は他校へ遠征を行い、実戦的な練習にも取り組んでいます。その成果として、昨年度は、第32回全国高等学校柔道選手権大会大分県予選会女子70kg級では第2位入賞を果たしています。現在、部員数が少ないのが悩みのたねです。初心者からでも心技体を鍛えたいと考えている学生を求めています。



剣道部

男子18名、女子8名の部員で活動しています。部訓は「正々堂々」。心も技もまっすぐに心を心がけ、一振りに心を込めた稽古をしています。6月の県総体では、男子団体、女子団体ともに3位。3年古賀が個人準優勝でインターハイに、3年吉武と2年笠谷が個人ベスト8で九州大会に出場しました。8月の県新人錬成大会では、男子団体ベスト8、女子団体3位でした。全国大会出場を目標に、これからも必死に稽古をしていきます。



硬式野球部

野球部は、昭和36年までは硬式野球部が活動していたが、工業科分離独立の後、軟式野球部として活動したが、昭和57年地域の応援もあり、硬式野球部が復活し、昭和59年大在地区床境に第二グラウンドが建設され、平成20年度からは、専用グラウンドとなり現在に至っている。この間の成績は、最高成績が昭和59年秋の大分県選手権準優勝が最高である。現在44名の部員（うち3年13名）が甲子園出場をめざして猛練習を続けている。



コーラス部

現在、3年生3人、2年生3人、1年生6人で活動しています。1年生が入るまでは5人で活動していたので、今年になって部員が増えた、そんな部です。先輩・後輩の壁を越え、和気あいあいとした雰囲気練習に取り組んでいます。昨年1月に出場したボーカルアンサンブルフェスティバルでは、「審査員特別賞」を受賞。皆が初心者からのスタートでも、練習を積み重ねることで上達しました。これからもっと部員を増やしていきたいです。



ギター・マンドリン部

昭和47年度卒業生がギターマンドリン部の第1期生です。以来40年を超える歴史があることになります。高校の部活動としては、大変貴重な存在で、多くの方々の御支援をいただきながら、活躍を続けてくることができました。大分県マンドリン連盟の演奏会やジョイントコンサート、音団協のコンサートなど、対外的な演奏会に参加させていただき、校内の文化祭を含めて、大好きなヒット曲からクラシックの名曲まで挑戦しています。



文芸部

文芸部は、創部57年の伝統ある部活動です。創部以来、部誌の『遠い道程』を毎年欠かすことなく発刊しています。

現在部員は2年生6名・1年生1名の計7名とちょっと淋しい状況ですが、「創作」「詩歌」とそれぞれ得意な分野で「十人十色」の個性的な創作活動を行っています。

文芸部が、今後も発展充実して、母校と共に歴史を重ねていくことを部員一同祈っています。



新聞部

3年生3名が高校県体後に実質引退となり、現在1年生の男子ばかり5名と顧問も含めて皆初心者です。これまで、新任の先生の特集号発行、高校県体の写真撮影、創立100周年記念新聞発行と続けました。特に記念新聞は初心者ばかりの部には重い課題でしたが、関係の皆さんのおかげでなんとか形あるものに仕上がりました。遠慮がちだった写真撮影にも次第に慣れてきて、もう少し活動の幅を広げることが今後のテーマです。



美術部

美術部は総勢13名部員がおり、内容は絵画・デザイン・彫刻・写真を扱っています。今年の文化祭ステージ発表では、風神・雷神をテーマに、パフォーマンスを行いました。また写真部門では、全国宮崎大会と九州沖縄大会に参加いたしました。公募ではデザイングランプリにおいて伝統工芸館賞、野球パンフレット原画においては優秀賞をいただきました。現在は100周年記念展示に向けて新たな作品づくりに励んでおります。



書道部

書道部は現在1年生5名・2年生1名の6名で放課後活動しています。毎日の練習や夏季合同合宿、翔鶴祭や各種大会などの行事を通じて練習を重ね書に臨んでいます。また、国際高校生選抜書展に向けて部員同士が切磋琢磨しながら作品づくりをする中で、よりよい作品ができるよう、集中力や技術の向上を目標に、またお互いを思いやる心や励ましあう気持ちを高められるよう、練習に励んでいます。



JRC部

現在、3年生4名、1年生10名でボランティア活動をしています。普段は鶴崎駅の清掃、ペットボトルキャップの回収、なぜか亀の水槽掃除（生徒の間では「亀吉」と名付けられ、かわいがられています）も担当しています。また、年に数回、他校と連携して募金活動や一人暮らしをしているお年寄りの家を訪問し、自分たちで搗いた餅の配布もしています。少しでも人の役に立つことをしようと、自主的に楽しみながら取り組んでいます。



茶道部

茶道部は1年生18名、2年生3名で活動しています。夏休みには、毎年、萬壽寺で行われる夏期研修会に参加し、法話を聞いたり、坐禅を体験しています。また、幼稚園から一般まで幅広い年齢の方が集まる合同茶会にも参加しています。

日頃のお稽古とこうした活動を通して、翔鶴祭のお茶会では、大勢の方々の前でお点前をすることができました。「一期一会」の心を大切にしています。



ESS部

ESSとは「English Speaking Society」の略で、英語に親しむことを目的にした部活です。現在3年生11名、2年生4名、1年生9名の計24名で、毎週水曜日の昼休みにALTの先生とお弁当を食べながら活動をしています。その他、放課後集まって外国のお菓子を作ったり、洋画を見たりしています。今年8月に新しくALTのリサ先生を迎えたことから、次回スコットランド菓子を作る計画を立てています。



吹奏楽部

吹奏楽部は、平成5年度に同校会として発足し、平成8年度に部へ昇格した創部15年目の本校では新しい部活です。年間の活動は、各種コンクール出場や本年度10回目を数える定期演奏会の開催、また、年に2回の近隣中学・高校・一般バンドとの合同演奏、地域の行事への参加などです。県吹奏楽コンクールでは、2年連続金賞をいただくことができました。また、依頼作品「鶴花繚乱」（鶴崎踊りによせて）の演奏なども行っています。



舞台映像部

1997年に研究会として創設、以後、2001年に同好会、2003年に部活に昇格して現在に至ります。高文連演劇部に所属するため、舞台創作においては演劇を中心としながらも、様々な表現に挑んでいます。映像に関しては、舞台上で使用するVJ他、番組やPVの作成もします。県下で最も刺激的な舞台を創っていると評判も高く、県大会時には多くの観客動員を誇ります。

「心と直接握手をしよう」これが私達のテーマです。



放送部

放送部の活動としては、春のNHK杯全国放送大会と秋の九州大会に向けての、朗読部門や番組部門の作品作りがあります。大会前は毎日遅くまで残って作品の編集に奮闘しています。本来の活動以外では、全校朝礼や部活動の激励会などの学校行事の時に、鶴高のPA（パブリック・アドレス）としての陰ながらの活躍があります。その他には、学校紹介ビデオを毎年作成しており、舞台映像部の角先生のサポートの下、好評を得ています。



家庭クラブ

家庭クラブとは、家庭科で習得した知識や技術を活かし、家庭生活や学校・社会生活のどこに問題があるかを見出し、その改善向上を目指して実践を行う組織です。本校は、夏休みを利用し、ボランティア活動に参加したり、1年生がホームプロジェクトとして課題に取り組み、クラス発表会を行っています。大分県連盟としての活動では、総会や研究発表会に代表者が参加し、他校生との交流をはかり、新聞により還流報告を行っています。



進路状況

進路別卒業生数

区 分	合 計	進 学 者	就 職 者	未 定 者
人 数	316	305	7	4

21年度大学等合格者数一覧表

国公立大学 () 内は過年度

大 学 名	合格者数
北 見 工 業 大 学	1
筑 波 大 学	1
信 州 大 学	1
山 口 大 学	2
愛 媛 大 学	1
熊 本 大 学	1
大 分 大 学	17 (2)
琉 球 大 学	4
下 関 市 立 大 学	1 (1)
山 口 県 立 大 学	1
高 知 工 科 大 学	1
高 知 女 子 大 学	1
北 九 州 市 立 大 学	3
長 崎 県 立 大 学	1
大分県立看護科学大	2
宮 崎 公 立 大 学	1
名 桜 大 学	2
計	44

私立大学

大 学 名	合格者数
亜 細 亜 大 学	1
国 土 館 大 学	1
駒 澤 大 学	1
専 修 大 学	(1)
拓 殖 大 学	1
津 田 塾 大 学	1
帝 京 大 学	2
東 京 農 業 大 学	1
日 本 大 学	1 (1)
明 治 大 学	1
愛 知 学 院 大 学	1
中 京 大 学	1
東 海 学 園 大 学	1
名古屋商科大学	1
日本福祉大学	1
皇 學 館 大 学	1
京 都 女 子 大 学	1
同 志 社 大 学	1
花 園 大 学	1
龍 谷 大 学	1
大阪学院大学	1

私立大学

大 学 名	合格者数
大 阪 工 業 大 学	1
関 西 大 学	5
関 西 外 国 語 大 学	1
近 畿 大 学	1
桃 山 学 院 大 学	2
姫 路 獨 協 大 学	1
岡 山 理 科 大 学	3
エリザベト音楽大学	1
広 島 工 業 大 学	4
広島文教女子大学	1
安 田 女 子 大 学	1
松 山 大 学	3
九 州 共 立 大 学	2
九 州 国 際 大 学	3
九 州 産 業 大 学	3 (1)
九 州 女 子 大 学	1
近畿大産業理工学部	2
久 留 米 大 学	7
久留米工業大学	5
国際医療福祉大学	1
西 南 学 院 大 学	7
西 南 女 学 院 大 学	6 (1)
第 一 薬 科 大 学	1
筑 紫 女 学 園 大 学	1
帝京大福岡医療技術	1
中 村 学 園 大 学	2
福 岡 大 学	14 (4)
福岡医療福祉大学	1
福 岡 経 済 大 学	2
福 岡 工 業 大 学	2
福岡女学院大学	4
西 九 州 大 学	1
長 崎 国 際 大 学	2
熊 本 学 園 大 学	1
熊本保健科学大学	2
東 海 大 学 農 学 部	3
日 本 文 理 大 学	24
別 府 大 学	41
立命館アジア太平洋	9 (1)
九州保健福祉大学	3
そ の 他	10
計	214

国公立短期大学

学 校 名	合格者数
大分県立芸術文化短	18
計	18

私立短期大学

学 校 名	合格者数
亜 細 亜 短	1
関 西 外 国 語 大 短	1
九 州 女 子 短	5
西南女学院大短	5
筑 紫 女 学 園 大 短	1
中 村 学 園 大 短	2
福 岡 女 子 短	1
別 府 大 短	23
別府溝部学園短	4
大 分 短	1
計	44

専門学校

学 校 名	合格者数
麻生リハビリテーション専	1
I V Y 総合技術工学院	3
K C S 大分情報専	9
明日香美容文化専	3
大分医学技術専	1
大 分 准 看 護 専	2
大分医療事務専	4
大分介護福祉士専	1
大 分 歯 科 専	4
大分視能訓練士専	1
大分スクールオブビジネス	2
大分リハビリテーション専	3
大分臨床検査技士専	5
大分臨床工学技士専	2
九州総合スポーツカレッジ	1
国際製菓調理専	1
藤 華 医 療 技 術 専	11
日本ビジネススクール	1
日本文理大学医療専	1 (1)
別府医療大分中央看護	7
鹿児島医療鹿児島看護	1
そ の 他	16
計	81

同窓会



大分市役所鶴朋会 会長

久 渡 晃

(昭和41年卒 大分市副市長)

私どもの母校である、大分県立大分鶴崎高校が創立百周年を迎えられたことを心からお喜び申し上げます。

明治43年に誕生した「鶴崎女子技芸補習学校」から幾多の変遷を経、昭和23年の学制改正により現在の「大分県立大分鶴崎高等学校」の礎を築かれて以来、一世紀もの風雪を乗り越え、歩んでこられました歴代学校長はじめ教職員、PTA、同窓会や地域の皆様方に心から敬意と感謝の意を表します。

ここで、大分市役所におきます同窓会活動などにつきまして報告させていただきます。昭和45年7月、名称を「大分市役所鶴朋会」と定め、会員相互の親睦を図り、市政発展に寄与することを目的として設立いたしました。

会の設立から今日まで大分市役所に採用された職員の結束も固く、40年の月日と共に今では約240名もの会員を有する同窓会へと大きく成長しております。

例年、若い世代の職員が企画するバス旅行などにより親睦を図っておりますが、年末の総会行事へは、会の顧問を務めていただいています河越康秀・河野広子両市議や、同窓会長、学校関係役員の皆様にもご臨席いただいております。和やかな雰囲気の中に親睦を深め、会の最後には参加者全員が肩を組んでの校歌斉唱。

「真理求めて たゆみなく 学ぶ 学ぶ 鶴崎高校の 我等に夢と 理想あり」のごとく、学び舎で過ごした我々の心が一つになる瞬間です。

我が「鶴高」の校訓、「克己・友愛・創造」のもと、大分県立大分鶴崎高等学校が次なる百年に向けて、さらなる躍進を遂げられることにエールを送ります。

最後に、多くの卒業生が我が同窓会へと加入されることを祈念し、お祝いのご挨拶とさせていただきます。



PTA活動

本校のPTAは、県内でも有数の活動実績を誇り、年間を通して様々な活動に取り組んでいます。今回は、そのいくつかの活動について紹介します。

1. 大学訪問

子供たちの進路決定の参考に、毎年九州管内のいくつかの大学を訪問し、授業の様子や入試について情報を集めています。平成22年6月28日に大分大学とAPUアジア太平洋大学の訪問に63名の保護者



が参加しました。その他、福岡大学・西南学院大学・九州産業大学など、その年の希望によって訪問先を決めています。

2. 翔鶴祭での食品バザー・リサイクルフリーマーケット

食品バザーは、文化祭の1日目にうどんやカレー、吉野の鳥めしなど6品目を昼食時に生徒に提供しています。生徒は食券を事前に購入し、中庭等で友達と食べるのを楽しみにしてくれています。

リサイクルフリーマーケットは、各家庭で不用のバスタオルや石鹸、食器類などの生活雑貨や衣類などを安い値段で販売しています。夏休み中それらを持ち寄り、生活委員さんが値段付けをして準備をします。当日は多くのお母さん方で会場が賑わい、またたく間に完売します。

3. 広報誌「花たちばな」発行

広報委員会は12名で構成され、PTA広報誌「花たちばな」を年間3回発行しています。学校生活や各行事の様子、関心のあるテーマを取り上げて記事にする活動をしています。それが評価され、平成17年には九州地区高P連広報誌コンクールでは最優秀賞を受け、県内でも毎年優秀賞や優良賞を受けています。

4. 応援カツカレー作り

3年生の大学入試本番を控えた10月には、3年生を激励するために毎年カツカレーを作り生徒の頑張

りを支えています。

〈生徒の言葉〉

- ・受験戦争に打ち勝つ。克つカレーを食べて最後まで諦めずに頑張ります。ありがとうございます。
- ・いつもありがとうございます。PTAの方々のおかげで翔鶴祭などの良い思い出ができました。今回の克つカレーで受験も頑張ります。



5. 豚汁炊き出し（クラスマッチ）

3月に行われる1・2年生のクラスマッチでは、バレー・バスケット・サッカー等の種目でクラス対抗により行われます。3つの大鍋に豚汁を作り、昼食時には試合を終えた生徒たちがお母さん方の愛情いっぱいの豚汁をおいしそうに食べてくれます。

6. 「0808鶴高」の活動

(1) 「0808鶴高」発足の背景

平成13年度に本校は県の「地域教育向上連携推進事業」の指定を受け、鶴崎地区に一体となって子育てに関心を持ってもらうために、幼・小・中・高が連携して事業を企画し、児童生徒の交流や保護者同士の交流を行いました。また、地域の方々に積極的に事業への参加や理解を得るための活動もしてきました。

当時の主な4つの事業として①地域で子育てふれあい事業、②鶴崎地区小・中・高部活動体験ふれあいデー、③父親のための子育て講演会、④ふれあいジョイントコンサートがありました。しかし、単年度の事業のため、地域からは「ぜひ来年も行ってほしい」等の継続の声が強く、通年で常時活動できる委員会（父親部）の立ち上げの気運が盛り上がってきました。

そんな中、母親中心のPTAに父親の姿がだんだんと見られるようになりました。小・中学校でも同じように父親のPTA参加が進み、父親部の活動が聞かれるようになりました。

平成17年度当初、会長・副会長、そしてPTA

を通じて知り合った父親数名が懇親会の席で「高校にも父親部を作ろう」の一言がきっかけとなり、「作るからには父親ならではの行事がしたい」と活動が始まりました。

(2) 名称について

平成18年度、「08」をゴロ合わせと親しみを込めて「オヤ」（親）と読み、前の08が男性保護者、後の08が女性保護者を表し、皆で協力して子ども達の教育と健全育成のために頑張るという意味を持ちます。会員数は年々増えつつあり、平成22年度現在、男性30人、女性56人です。

(3) これまでの代表的活動

① こども見守りのイルミネーション

期間：毎年12月初旬から1月中旬までの1ヶ月間

内容：冬の寂しい校内の木々に点滅球を飾り付けて、子ども達に楽しんでもらったり、勉強の励ましにもなると同時に、定刻になると自動点灯・消灯し、下校時刻の告知“時の告げど木”として生徒の健全育成としての意味も込めて行っています。

② 冬の火花

期日：平成22年12月14日（火）

内容：地域の活性化と受験生の激励を込めて、イルミネーション点灯式に合わせてグラウンドの一角から打ち上げました。今年で5回目となる冬の火花は、鶴崎の空に華やかな大輪が上がり、地域の方々にも楽しんでいただいています。



③ 大門松作り

期日：平成22年12月19日（日）

内容：受験生の合格を祈り、受験勉強激励の意味を込め、校門に一对の大門松と各教室にミニ門松を作成しています。（6回目）



④ ふれあいジョイントコンサート

期日：平成23年2月6日（日）（9回目）

会場：鶴崎公民館

内容：鶴崎地区の小・中・高・一般の各吹奏楽団体が共同企画・合同演奏会を実施し、地域のふれあいと交流を図っています。今年は、鶴崎中学・鶴崎工業高校・大分鶴崎高校・鶴崎吹奏楽団・別保アカデミー少年少女合唱団が出演します。

⑤ 伝統芸能「本場鶴崎踊り」の継承活動

期日：平成22年8月22日（日）

内容：国指定無形文化財である「本場鶴崎踊り」に毎年参加しています。チーム名は〈鶴高小町・太夫〉で、生徒・先生・保護者が一体となり、地域行事に積極的に参加しています。今年は、1・2年生の女子の中から選りすぐりのメンバーをそろえて出場し、団体賞「大分ケーブルテレコム賞」を受賞することができました。



7. その他の活動

近隣の5校（鶴工・情報科学・大商・大分東・鶴高）対抗親善ミニバレーボール大会、生徒の環境整備のためのグラウンドの草刈り、セミナーハウス清掃や側溝の掃除等、様々な活動を行っています。

今後も、PTAと学校が同じ目線で地域と連携協力しながら、あるときは言葉で、あるときは姿ですべての子ども達の幸せのために活動していきたい。



写真：現在の校舎

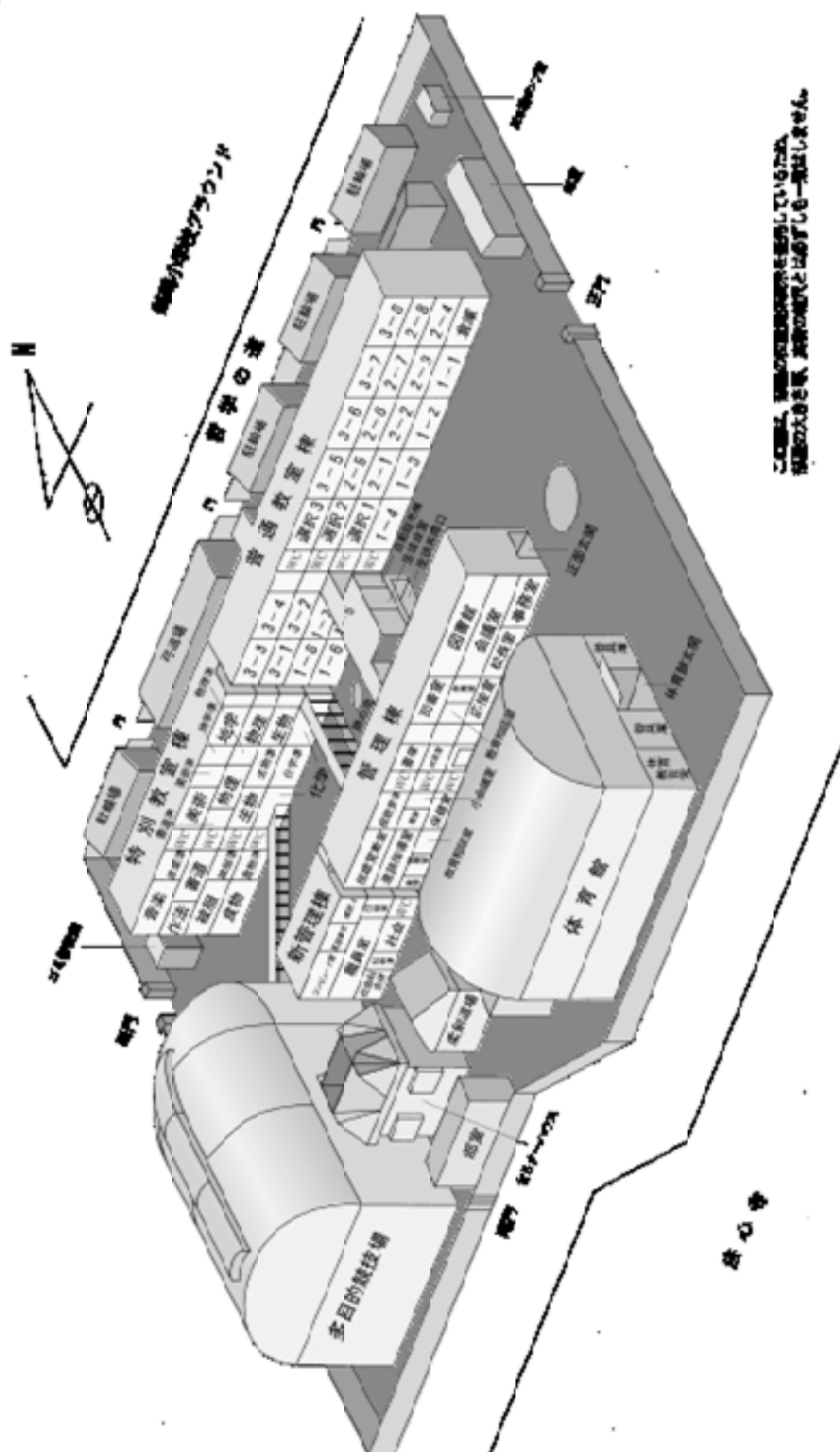
資 料

OITA TSURUSAKI Senior High School

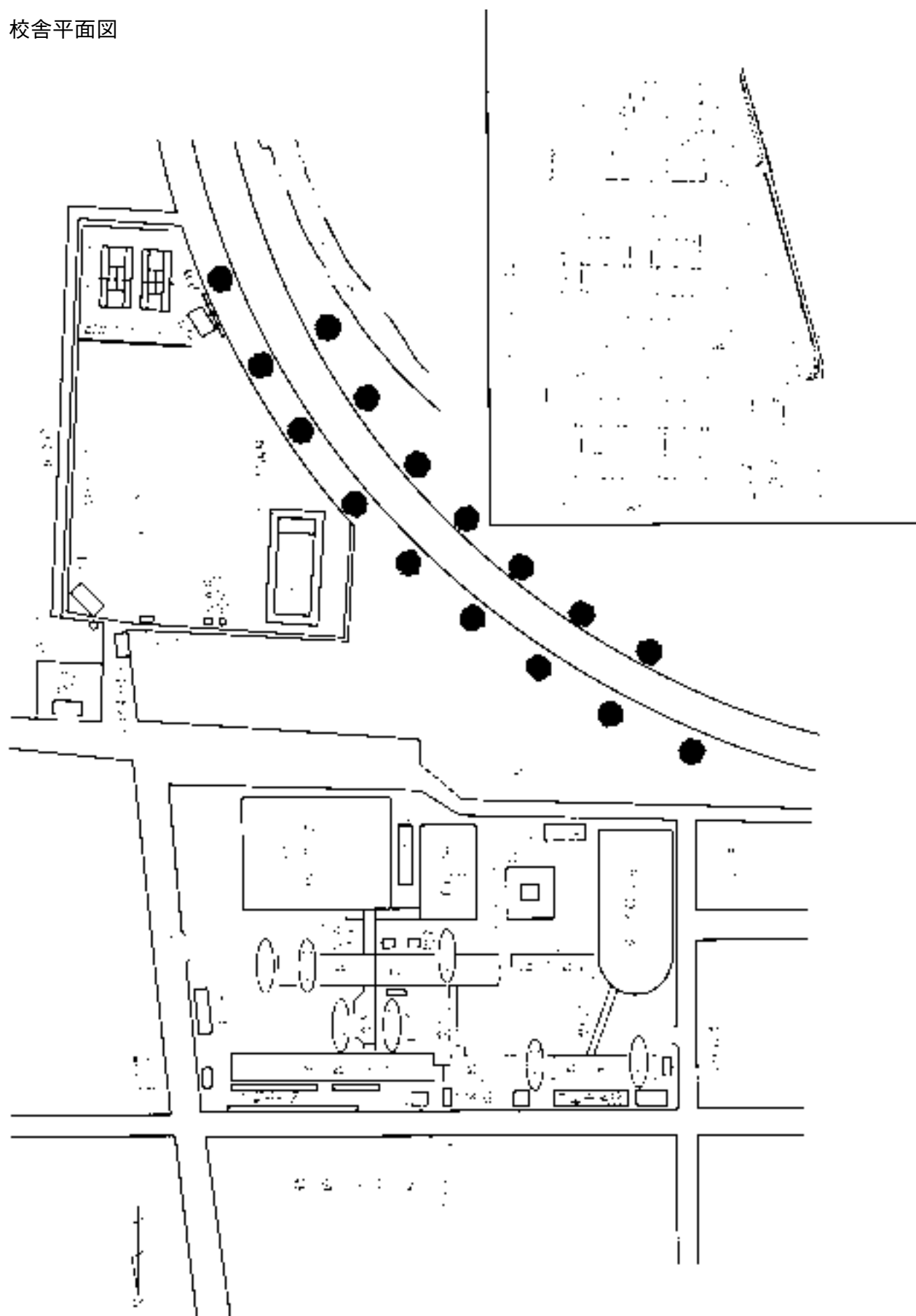
100th Anniversary

校舎配置図

校舎配



校舎平面図



卒業生数一覧

(1) 高校設置前

前 進 校 名	鶴 崎 中 学 校	鶴 崎 高 等 女 学 校	合 計
卒 業 生 数	488	3,366	3,854

(2) 高校設置（昭和23年4月1日学制改革）以降

課 程 回 卒業年月		普 通 科			課 程 回 卒業年月		普 通 科		
		男	女	計			男	女	計
第 1 回	昭和24年3月	50	0	50	第33回	昭和56年3月	190	198	388
第 2 回	昭和25年3月	84	17	101	第34回	昭和57年3月	191	195	386
第 3 回	昭和26年3月	88	50	138	第35回	昭和58年3月	175	212	387
第 4 回	昭和27年3月	122	107	229	第36回	昭和59年3月	191	198	389
第 5 回	昭和28年3月	81	105	186	第37回	昭和60年3月	196	191	387
第 6 回	昭和29年3月	67	107	174	第38回	昭和61年3月	198	209	407
第 7 回	昭和30年3月	67	99	166	第39回	昭和62年3月	186	222	408
第 8 回	昭和31年3月	57	128	185	第40回	昭和63年3月	216	187	403
第 9 回	昭和32年3月	66	104	170	第41回	平成元年3月	214	189	403
第10回	昭和33年3月	67	111	178	第42回	平成2年3月	200	202	402
第11回	昭和34年3月	56	138	194	第43回	平成3年3月	241	211	452
第12回	昭和35年3月	64	145	209	第44回	平成4年3月	226	218	444
第13回	昭和36年3月	62	140	202	第45回	平成5年3月	209	188	397
第14回	昭和37年3月	59	133	192	第46回	平成6年3月	191	212	403
第15回	昭和38年3月	71	133	204	第47回	平成7年3月	160	193	353
第16回	昭和39年3月	66	128	194	第48回	平成8年3月	162	176	338
第17回	昭和40年3月	85	159	244	第49回	平成9年3月	150	185	335
第18回	昭和41年3月	132	236	368	第50回	平成10年3月	170	188	358
第19回	昭和42年3月	152	274	426	第51回	平成11年3月	182	173	355
第20回	昭和43年3月	213	210	423	第52回	平成12年3月	151	168	319
第21回	昭和44年3月	193	231	424	第53回	平成13年3月	171	180	351
第22回	昭和45年3月	144	200	344	第54回	平成14年3月	179	163	342
第23回	昭和46年3月	163	172	335	第55回	平成15年3月	160	187	347
第24回	昭和47年3月	158	184	342	第56回	平成16年3月	152	198	350
第25回	昭和48年3月	158	156	314	第57回	平成17年3月	139	175	314
第26回	昭和49年3月	155	163	318	第58回	平成18年3月	144	165	309
第27回	昭和50年3月	173	147	320	第59回	平成19年3月	145	164	309
第28回	昭和51年3月	164	139	303	第60回	平成20年3月	132	185	317
第29回	昭和52年3月	168	187	355	第61回	平成21年3月	138	171	309
第30回	昭和53年3月	177	184	361	第62回	平成22年3月	138	178	316
第31回	昭和54年3月	167	175	342					
第32回	昭和55年3月	185	160	345	計		9,011	10,303	19,314

部活動成績

〈平成18年度〉

- 体操
個人九州大会出場
- 水泳
女子／県体準優勝／九州大会・全国大会出場
- ハンドボール女子
県体13連覇／九州大会2連覇・全国大会出場
- サッカー
全国選手権大会出場
- ソフトテニス女子
個人九州大会出場
- 柔道
個人九州大会出場
- 剣道
個人九州大会出場
- 吹奏楽部
県コンクール銀賞
- 放送
九州大会・全国大会出場

〈平成19年度〉

- 体操
県新人戦団体男子2位
- 水泳
県体団体女子2位
個人九州大会・インターハイ出場
県新人戦団体男子2位
- バスケットボール女子
県体3位／県新人戦2位
- ハンドボール女子
県体13連覇／九州大会2連覇・インターハイ出場／
選抜大会全国3位
- サッカー
県体優勝
インターハイベスト8・全国選手権大会出場
- ソフトテニス女子
新人戦個人九州大会出場
- 剣道
男女個人九州大会出場
男子団体全国選抜大会ベスト8

- 美術
九州大会優秀賞／全国大会優秀賞
- 書道
九州大会出場
- 吹奏楽部
県コンクール銀賞
プラスカーニバル金賞
- 放送
九州大会・全国大会出場

〈平成20年度〉

- 水泳
県団体女子2位／九州大会個人優勝
個人インターハイ出場（県新記録）
県新人戦女子2位
- バスケットボール女子
県体3位／県新人戦優勝／九州大会出場
- ハンドボール女子
県体14連覇／九州大会2位・インターハイ全国3位
国体3位／全国選抜大会出場
- サッカー
県体2連覇／九州大会3位／インターハイベスト8
県新人戦2位／九州大会出場
- ソフトテニス女子
県体ベスト8／九州新人大会出場
- 柔道
県新人戦ベスト8
- 剣道
県体男子3位、女子2位、女子個人優勝・九州大会出場
県新人戦男子優勝／九州大会出場
- 美術
高文連中央展写真部門大分県代表／九州大会出場
- 吹奏楽
県吹奏楽コンクール銀賞・プラスカーニバル銀賞
- 舞台映像
中央演劇祭優秀賞
- 放送
県放送コンテスト創作ドラマ部門1位
アナウンス部門優良賞・研究発表部門奨励賞
全国放送コンテスト出場

〈平成21年度〉

●水泳

県総体団体女子優勝 個人1位

九州総体・全国総体出場

県新人戦団体女子優勝

●バスケットボール女子

県総体2位／県新人戦2位／九州総体出場／

ウィンターカップ県優勝・全国大会出場

●ハンドボール女子

県総体15連覇／九州総体・全国総体出場

●サッカー

県総体2位／九州総体出場／県新人戦3位

全国選手権県予選2位

●ソフトテニス女子

県総体個人ベスト8／九州総体・全国総体出場

●柔道

県新人戦女子個人3位

●剣道

県総体男子団体優勝、女子4位

九州総体男子3位・全国総体出場

●弓道

県総体女子個人優勝／九州総体・全国総体出場

●書道

別大揮毫大会CTB賞／国際高校生選抜大会入選

●美術

高文連中央大会優秀作品／九州・全国高文連出品

●吹奏楽

県吹奏楽コンクール金賞／プラスカーニバル金賞

●舞台映像

中央演劇祭準優勝／冬季演劇祭準優勝

〈平成22年度〉

●水泳

県総体団体女子優勝 個人1位

九州総体出場

●バスケットボール女子

県総体3位

●ハンドボール女子

県総体優勝

九州総体・全国総体出場

●サッカー

県総体優勝

九州総体・全国総体出場

全国選手権県優勝・全国大会出場

●剣道

県総体団体男子3位

九州総体・全国総体男子個人出場

県総体団体女子3位

九州総体女子個人出場

●美術

九州・全国高文連総合文化祭出品

●吹奏楽

県吹奏楽コンクール金賞

編集後記

創立百周年のメインである記念式典が終了してすでに3か月、その前後には、翔鶴祭・招待試合・演奏会・作品展等、いずれも印象深い行事が続きましたが、この「創立百周年記念誌」もいよいよ発刊のときを迎えました。

振り返れば、記念誌の発行が決まり、編集の基本方針が示されたのは一昨年のことでした。編纂にあたっては、開校時から現在まで（百周年記念事業もあわせ記載）を回顧するとともに、将来につなげてゆくものとする、各年齢層が読んでわかりやすいように写真等を多く使うなどの目標も決まり、そうして準備の作業は少しずつ進み、印刷所との打ち合わせも行われました。さらに新年度になって、執筆者の選出と原稿の依頼に着手、写真等の撮影と選択、全体の構成配置など具体的な多くの仕事が続きましたが、関係者のなみなみならぬ御努力、御協力により「百周年記念誌」は、記念式典や記念講演をふくめ、このような体裁でまとめることが出来ました。

お忙しい時に執筆していただいた方々、こころよく資料を提供して下さった方々、あるいは企画に参加され作業を手伝って下さった方々、そのほか多くの関係者にはたいへん御世話になりました。心より厚く御礼申し上げます。また、印刷所の担当の方にも当初からたいへん御世話になりました。

この記念誌をめくると、どこかのページに、在りし日の自分とつながる写真か文章がきっと見つかると思います。そこから思い出を豊かにふくらませながら、この「百周年記念誌」をいつまでも御愛読くださるようお願いいたします。

編集委員

同窓会

安部光太郎(7期) 河室 薫(15期) 安部 泰史(15期)

学 校

後藤 直実 手嶋 貴博 詫摩 英明

大分県立鶴崎高等学校応援歌

作詞 脇 太一
作曲 千本 延隆

一、青春花と 咲きかおる

大野の流れ はつらつと

若鮎おどる 我が選手

不屈の闘志 火をはけば

水もわきたち ほとばしる

フレ－鶴崎 フレ－鶴崎

フレ－ フレ－ フレ－

二、希望はたぎる 豊の海

磨きの技を 堂々と

示せよ強き 我が選手

ベストを尽す 雄々しさに

風もはためき 雲を呼ぶ

フレ－鶴崎 フレ－鶴崎

フレ－ フレ－ フレ－

三、愛校燃ゆる たたかいに

勝利の旗を さっそうと

かかげよ高く 我が選手

かちどき揚る 感激に

由布もどよめき こだまする

フレ－鶴崎 フレ－鶴崎

フレ－ フレ－ フレ－



大分県立大分鶴崎高等学校 創立百周年記念誌

平成23年2月28日 発行

発行／大分県立大分鶴崎高等学校

〒870-0104 大分県大分市南鶴崎3丁目5番1号

TEL 097-527-2166 FAX 097-521-5443

URL <http://oitaturusaki-h.oita-ed.jp>

印刷／小野高速印刷株式会社

〒870-0913 大分市松原町2丁目1-6 TEL097-558-3444 FAX097-552-2301

※掲載されている各種資料・写真は、デジタル化され当社内に保存しています。